

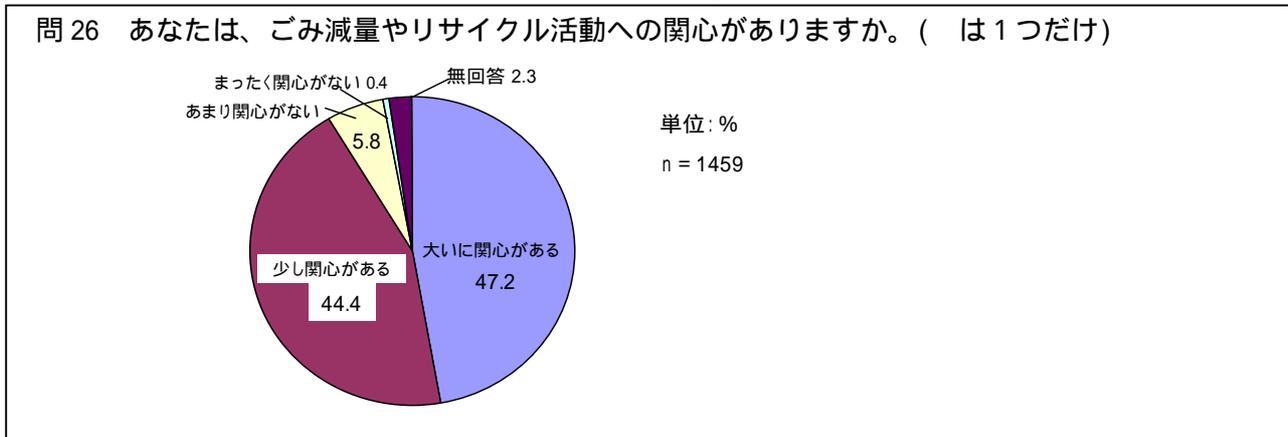
第 3 章

5 循環型社会の形成に向けて

(1) ごみに対する基本的な意識について

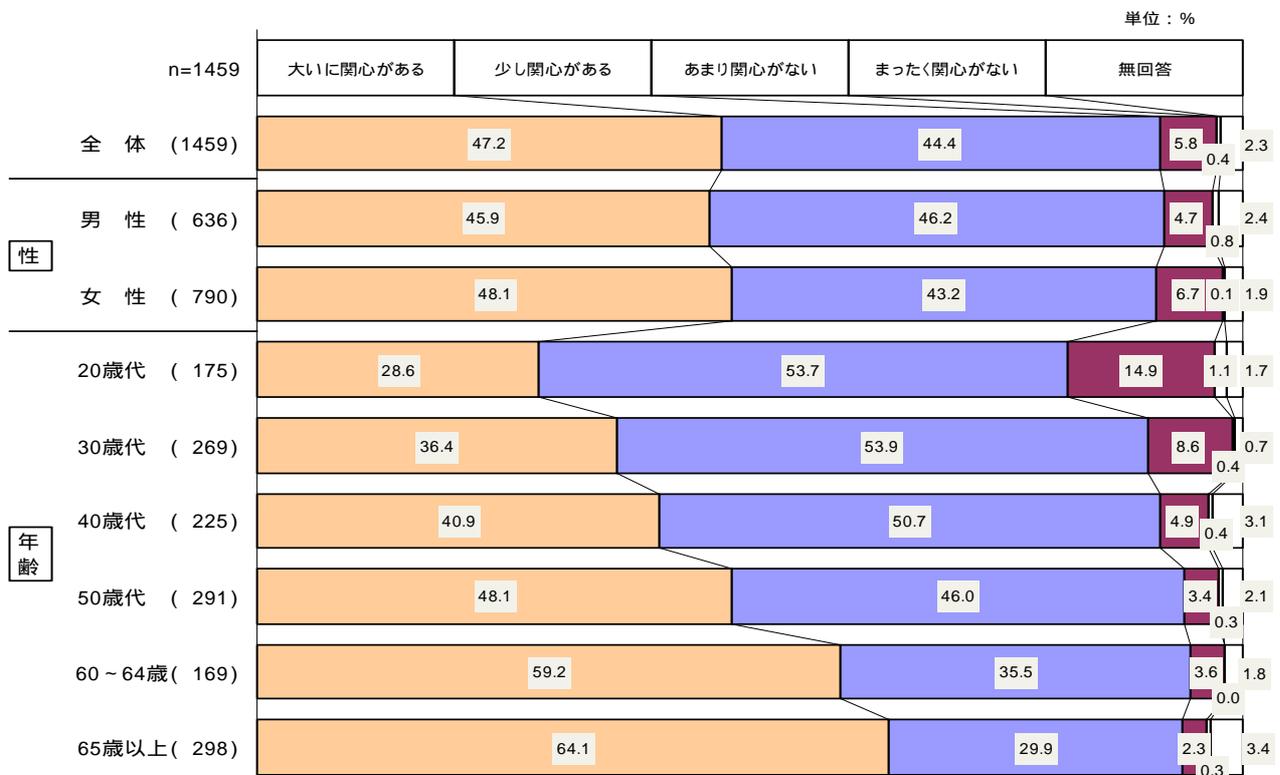
(1) - 1 ごみ減量やリサイクル活動への関心

「大いに関心がある」という人が最も多い



ごみ減量やリサイクル活動への関心では、「大いに関心がある」(47.2%)という答えが最も多く、「少し関心がある」(44.4%)という人も合わせると、90%超を占める。他方、「あまり関心がない」は5.8%となっている。

【性別 / 年齢別】



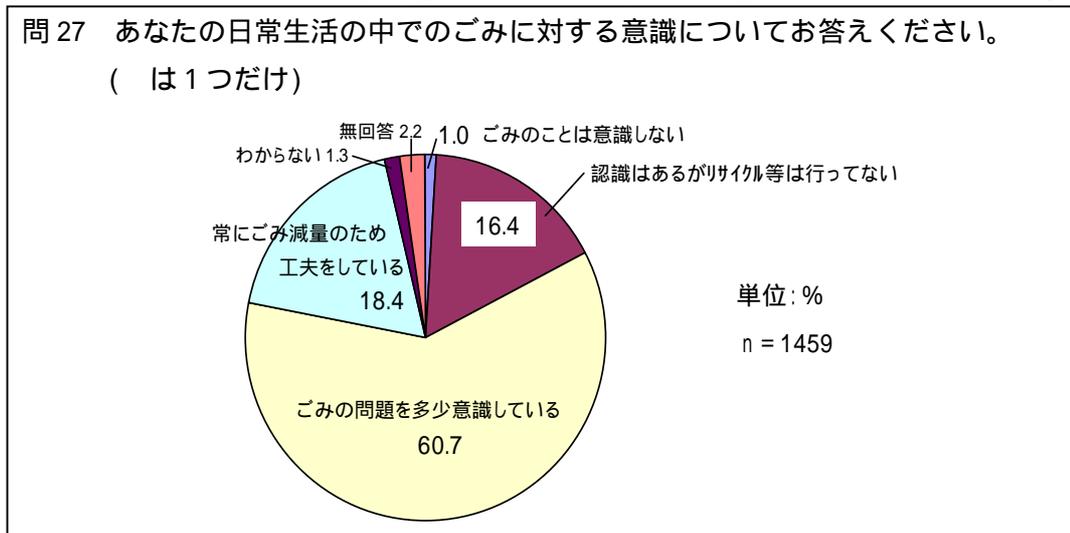
「大いに関心がある」は、年齢が高くなるほど割合も高くなっている。逆に「あまり関心がない」は、年齢が低いほど割合が高くなっている。年齢による関心の違いがうかがえる。

性別による大きな違いは見られない。

(2) ごみの発生抑制・循環型社会に関する意識について

(2) - 1 日頃のごみに対する意識

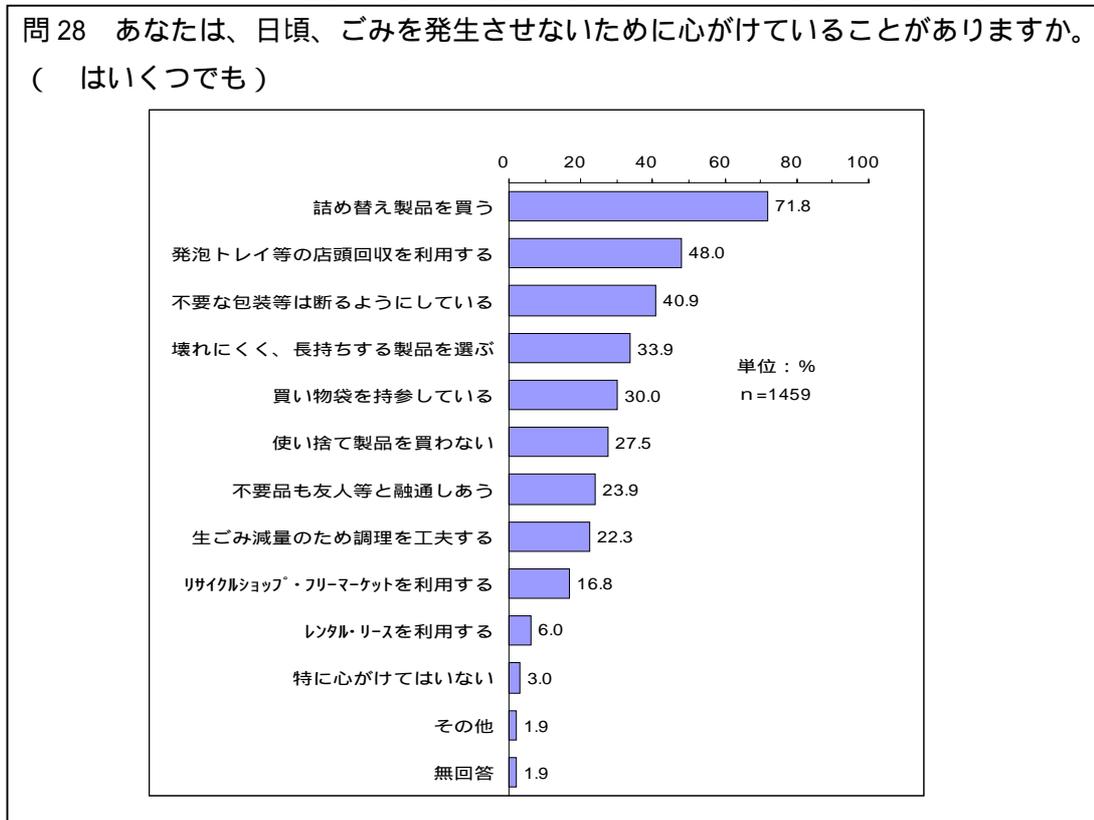
ごみの問題について「多少意識」しているという人が最も多い



日頃のごみに対する意識では、「ごみの問題を多少意識」している、という回答が最も多く、6割強を占める。「常に」ごみ減量のための工夫をしている、という人を合わせ、約8割がごみに対して何らかの意識・工夫をしていることが分かる。「ごみのことは意識しない」という人は、1.0%。

(2) - 2 ごみを発生させない心がけ

「詰め替え製品を買う」という答えが最も多く、7割を超える

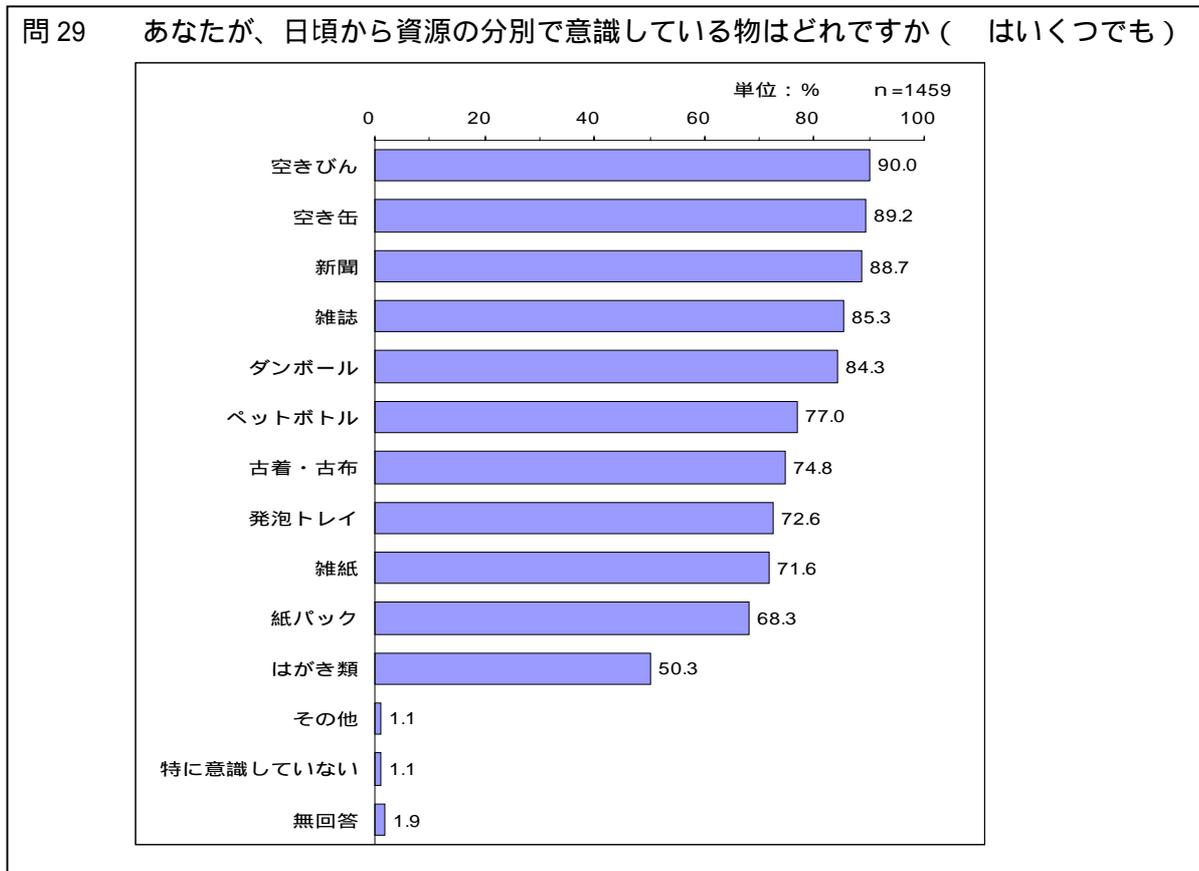


「詰め替え製品を買う」と答えた人が最も多く、70%超を占めている。以下「発泡トレイ等の店頭回収を利用する」(48.0%)、「不要な包装等は断るようにしている」(40.9%)等が続く。

(3) ごみの分別について

(3) - 1 資源の分別で意識している物

「空きびん」「空き缶」などがよく意識されている

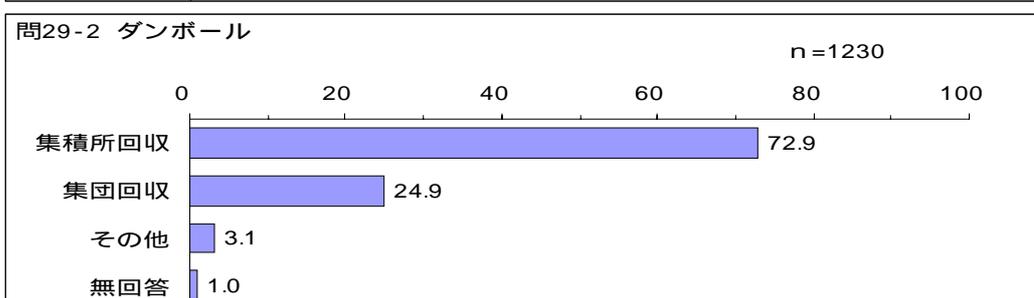
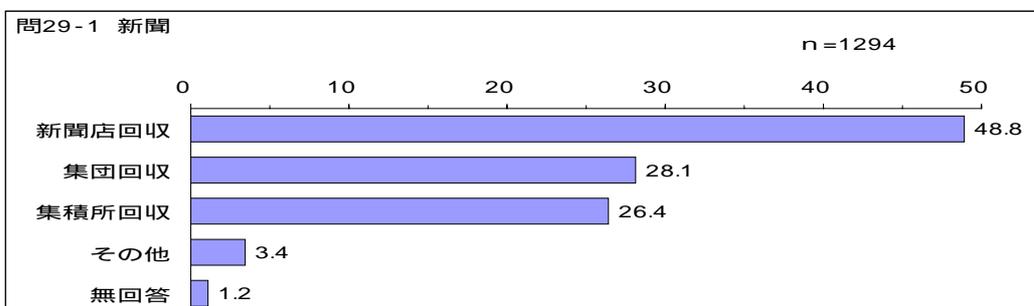


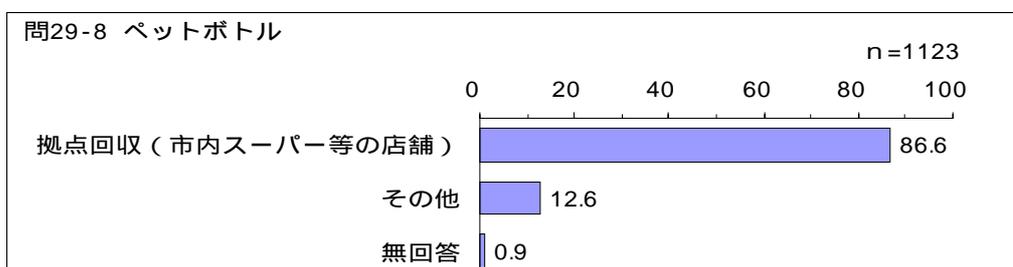
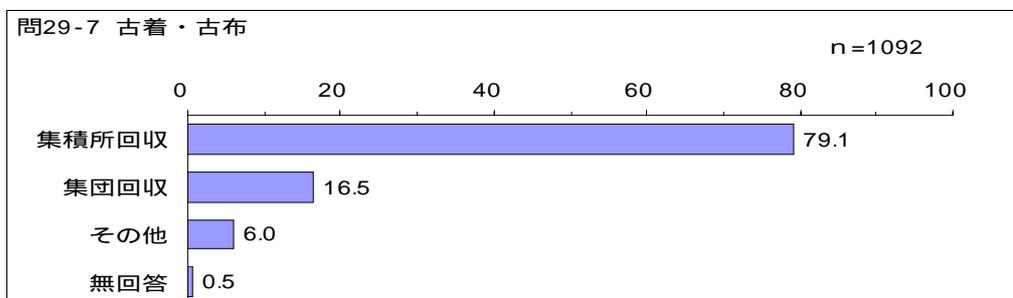
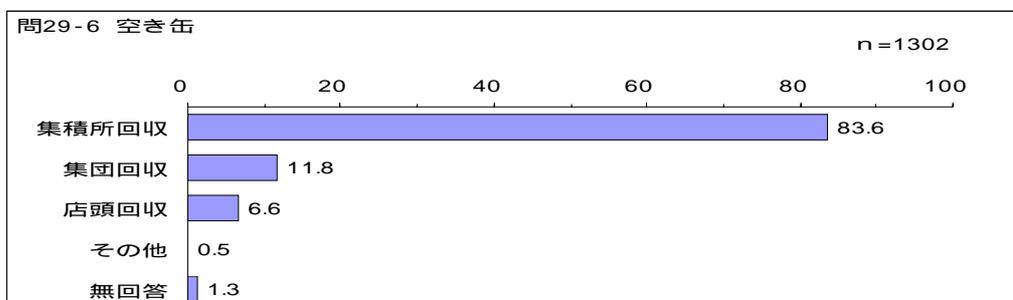
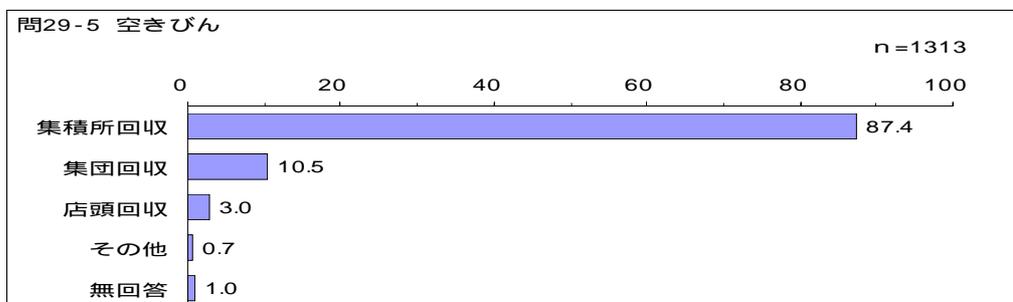
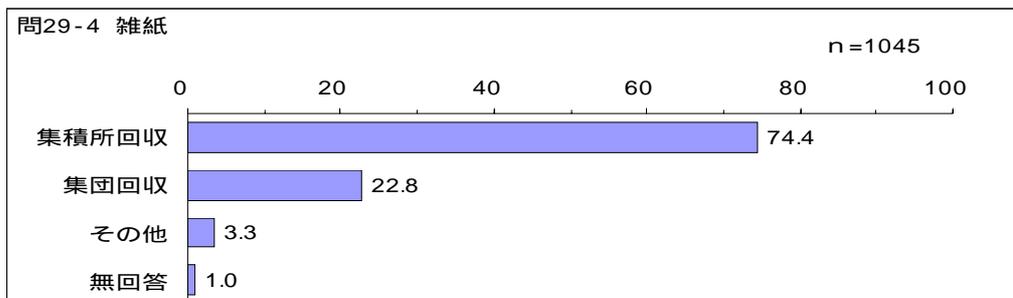
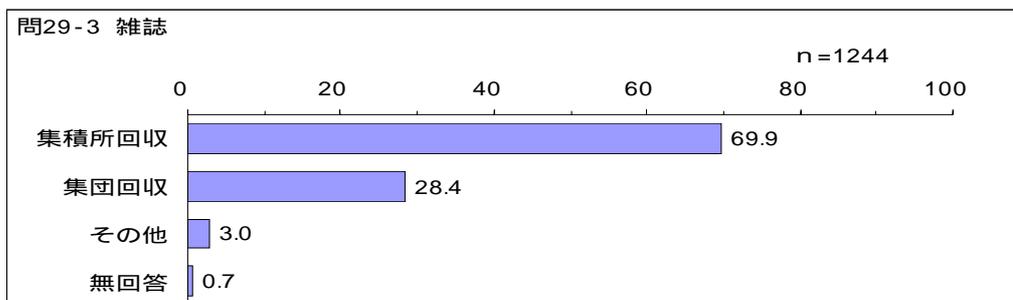
ほとんどの品物で分別が意識されており、最も多い「空きびん」で9割、少なめの「はがき類」でも半数が意識していることが分かる。

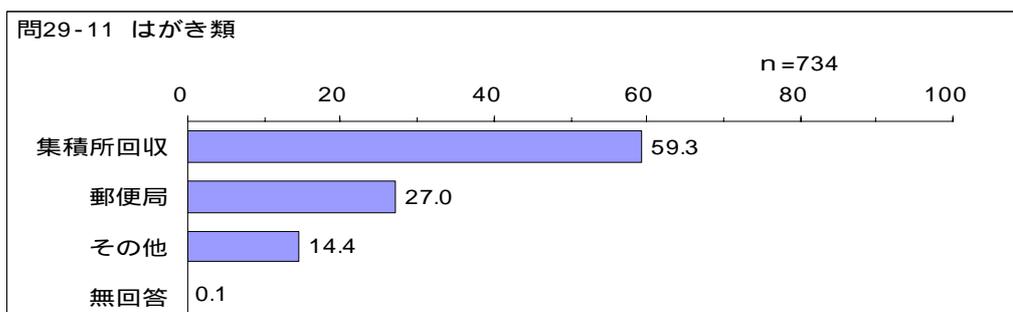
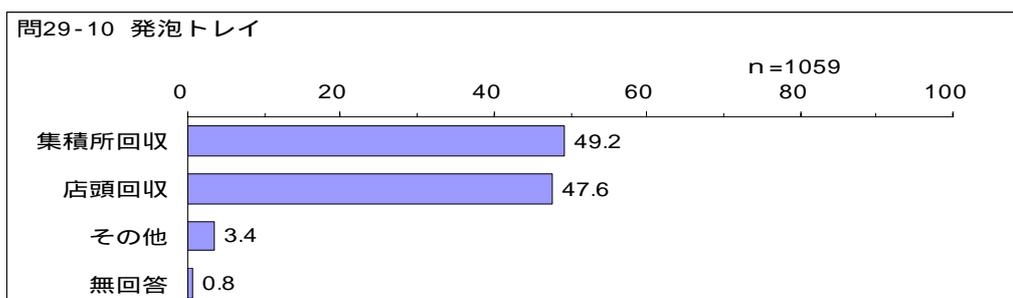
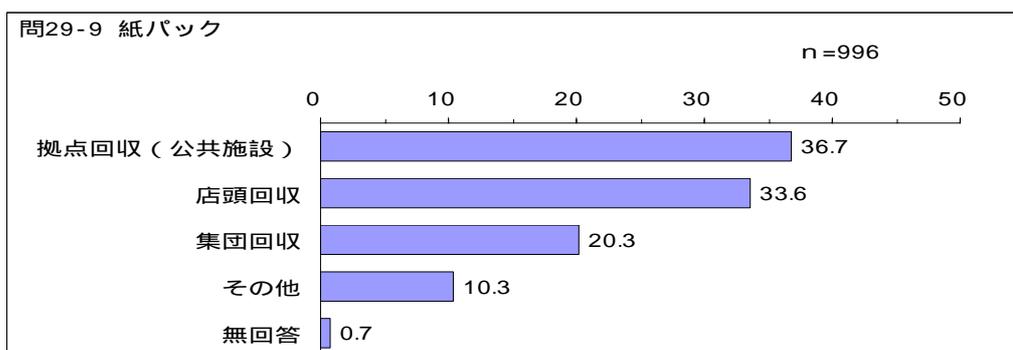
「特に意識していない」という回答は、1.1%。

また、 を付けた資源物を主にどこへ出していますか。〔 〕内から主なものを選んで下さい。

[*以下の各グラフ中、単位：%]







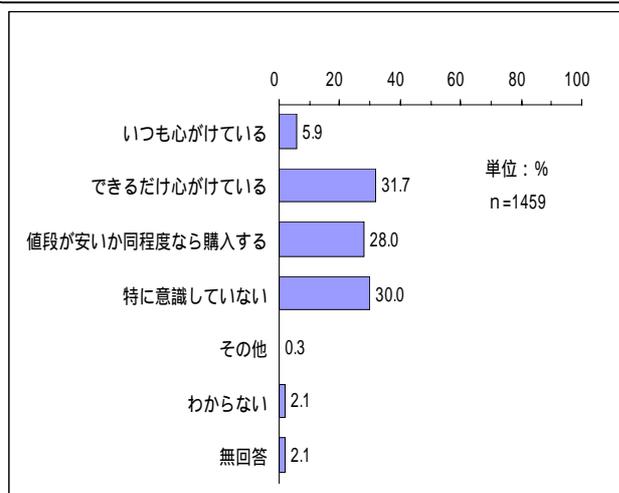
(4) グリーン購入に対する意識について

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、再生された素材で作られているものやリサイクルがしやすい素材のものなど、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

(質問は次のページ)

(4) - 1 グリーン購入への心がけ “励行度”が大きく3つに分かれている

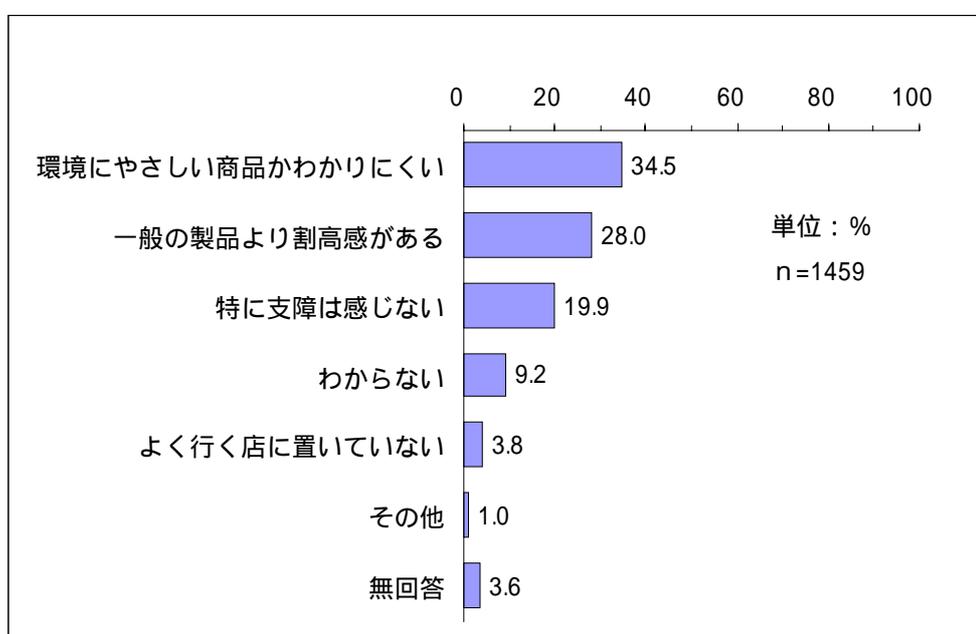
問 30 あなたは、商品を購入する際に、環境にやさしいものを買うようにしていますか。
(は1つだけ)



結果がはっきりと分かれ、「できるだけ心がけている」、「値段が安いと同程度なら購入する」、「特に意識していない」がそれぞれ30%前後ずつとなっている。
「いつも心がけている」とした回答は6%弱に止まっている。

(4) - 2 グリーン購入で支障を感じること 「環境にやさしい商品かわかりにくい」、「一般の製品より割高感がある」など

問 31 あなたは、環境にやさしい製品を買おうとすると、何か支障を感じることはありませんか。
(は1つだけ)



「環境にやさしい商品かわかりにくい」が34.5%で第1位となっている。

次いで「一般の製品より割高感がある」(28.0%)が多く、「特に支障は感じない」という回答は20%弱で第3位となっている。

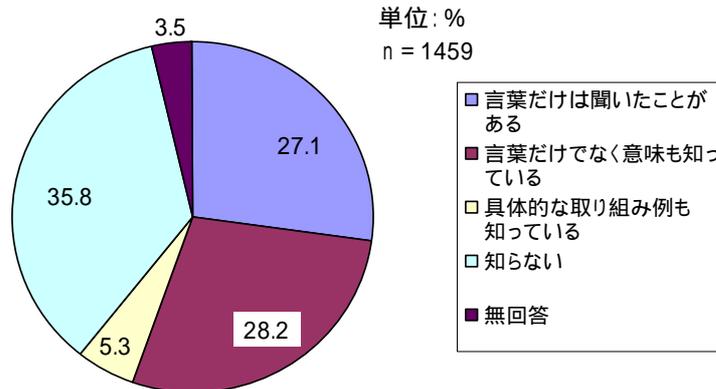
6 地産地消の推進

(1) 地産地消について

(1) - 1 用語「地産地消」の認知度

「地産地消」を何らかの形で“知っている”人が約6割

問 32 「地産地消」とは、地元でとれた生産物を地元で消費するということですが、あなたは、この言葉の意味をどの程度知っていますか。(は1つだけ)

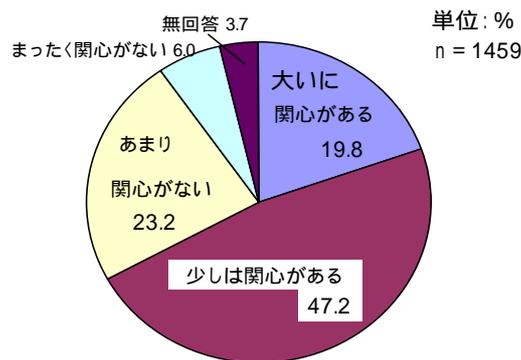


「意味まで知っている」(28.2%)と「言葉だけ知っている」(27.1%)及び「具体的な取り組み例も知っている」(5.3%)を合わせ、“知っている”という回答が60.6%。他方「知らない」という人は35.8%。

(1) - 2 「地産地消」への関心度

7割弱の人が“関心がある”

問 33 あなたは、「地産地消」に対してどの程度関心がありますか。(は1つだけ)



「少しは関心がある」と答えた人が半数弱と最も多く、「大いに関心がある」と合わせる(= “関心がある”)と67%に達する。

一方、「あまり関心がない」・「まったく関心がない」の合計(= “関心がない”)の割合は29.2%。

【性別 / 年齢別】

男性よりも女性で“関心がある”人の割合が大きくなっている。また、若年層よりも高齢層で“関心がある”人の割合が大きくなっている。(集計表は次のページ)

問33 「地産地消」への関心度

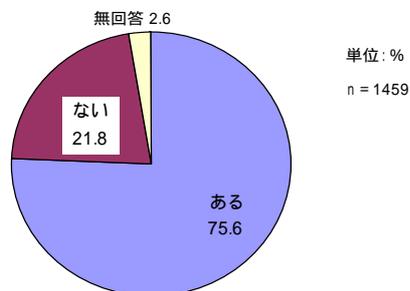
		全体	大いに 関心がある	少しは関 心がある	あまり関 心がない	まったく 関心がない	無回答
合計		1459	289	689	339	88	54
		100.0	19.8	47.2	23.2	6.0	3.7
F1 性別	男性	636	110	285	172	47	22
		100.0	17.3	44.8	27.0	7.4	3.5
	女性	790	170	388	161	41	30
		100.0	21.5	49.1	20.4	5.2	3.8
F2 年齢	20歳代	175	13	64	69	25	4
		100.0	7.4	36.6	39.4	14.3	2.3
	30歳代	269	29	129	76	29	6
		100.0	10.8	48.0	28.3	10.8	2.2
	40歳代	225	45	116	48	11	5
		100.0	20.0	51.6	21.3	4.9	2.2
	50歳代	291	42	146	78	11	14
	100.0	14.4	50.2	26.8	3.8	4.8	
	60～64歳	169	60	82	21	1	5
		100.0	35.5	48.5	12.4	0.6	3.0
	65歳以上	298	90	137	42	11	18
		100.0	30.2	46.0	14.1	3.7	6.0

* 上段...人数 (単位:人) 下段...構成比 (単位:%)

(1) - 3 市内産農畜産物購入の有無

市内産のものの購入経験は「ある」という人が多い

問34 あなたは、市内産の農畜産物(野菜、果物、花など)を購入(消費)したことがありますか。
(は1つだけ)



「ある」という回答(75.6%)が「ない」という回答の3倍以上を占め、圧倒的に多くなっている。

【居住地域別】* 上段...人数 (単位:人) 下段...構成比 (単位:%)

		全体	ある	ない	無回答
合計		1459	1103	318	38
		100.0	75.6	21.8	2.6
F9 居住 地域	本庁管内(中央地 域)	331	232	91	8
		100.0	70.1	27.5	2.4
	元八王子・恩方・ 川口(西部地域)	237	198	31	8
		100.0	83.5	13.1	3.4
	浅川・横山・館 (西南部地域)	288	221	63	4
		100.0	76.7	21.9	1.4
	加住・石川(北部 地域)	110	83	24	3
	100.0	75.5	21.8	2.7	
	由井・北野(東南 部地域)	216	175	35	6
	100.0	81.0	16.2	2.8	
	由木・由木東・南 大沢(東部地域)	242	171	64	7
	100.0	70.7	26.4	2.9	

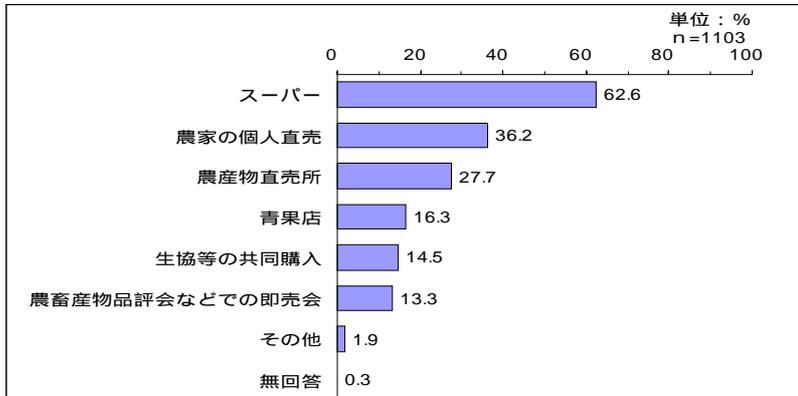
「ある」という人の割合は、元八王子・恩方・川口(西部地域)、由井・北野(東南部地域)などで、全体よりも大きくなっている。反対に本庁管内(中央地域)、由木・由木東・南大沢(東部地域)等では、全体より小さい。

(1) - 4 農畜産物を購入した場所

「スーパー」、「農家の個人直売」、「農産物直売所」など

(問 34 で「1 ある」とお答えの方に)

問 34 - 1 市内産の農畜産物を購入した場所はどこですか。(はいくつでも)



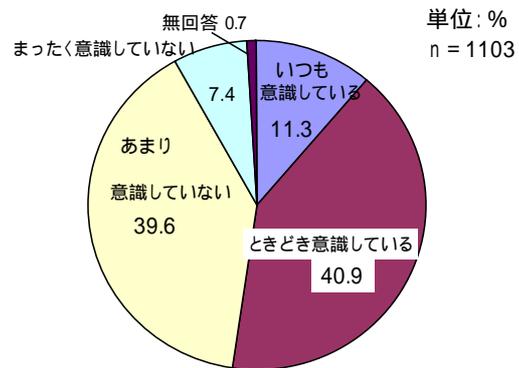
「スーパー」という回答が最も多く、6割超を占める。

次いで多い回答は「農家の個人直売」で、30%台の後半を占めている。第3位は「農産物直売所」。

(1) - 5 意識して購入しているか

“意識している”という人は52.2%、男性より女性が多い

問 34 - 2 あなたは、市内の農畜産物を意識して購入(消費)していますか。(は1つだけ)



「時々意識している」(40.9%)と「あまり意識していない」(39.6%)が僅差で多くなっている。「いつも」と「時々」を合わせて“意識している”という人が52.2%、他方、「あまり」と「まったく」を合算して“意識していない”という人は47.0%となっている。

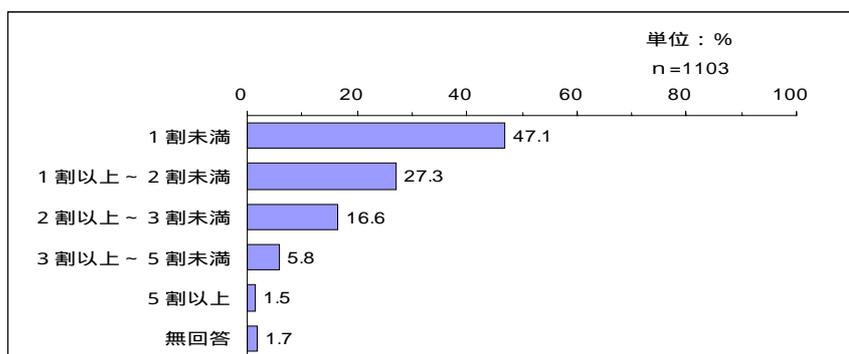
【性別/年齢別】*上段...人数(単位:人) 下段...構成比(単位:%)

	全体	いつも意識している	時々意識している	あまり意識していない	まったく意識していない	無回答	
合計	1103	125	451	437	82	8	
	100.0	11.3	40.9	39.6	7.4	0.7	
性別	男性	437	40	159	198	38	2
		100.0	9.2	36.4	45.3	8.7	0.5
	女性	640	82	280	229	43	6
	100.0	12.8	43.8	35.8	6.7	0.9	
年齢	20歳代	87	3	25	42	17	0
		100.0	3.4	28.7	48.3	19.5	0.0
	30歳代	194	8	65	95	25	1
		100.0	4.1	33.5	49.0	12.9	0.5
	40歳代	168	13	69	70	15	1
		100.0	7.7	41.1	41.7	8.9	0.6
	50歳代	230	19	100	97	14	0
	100.0	8.3	43.5	42.2	6.1	0.0	
60~64歳	151	27	79	42	2	1	
	100.0	17.9	52.3	27.8	1.3	0.7	
65歳以上	248	52	102	81	8	5	
	100.0	21.0	41.1	32.7	3.2	2.0	

男性よりも女性で、また、年齢が高くなるにつれて、“意識している”の割合が大きくなっている傾向が見てとれる。

(1) - 6 市内産の農畜産物の購入割合
約75%の人は“2割未満”

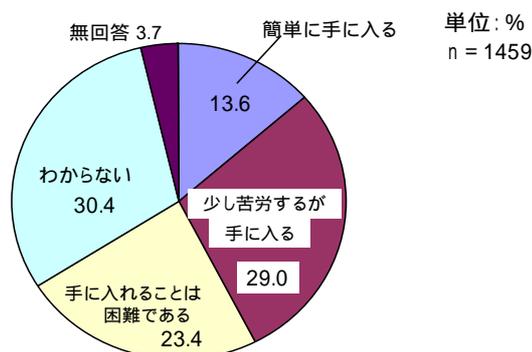
問 34 - 3 あなたがこの1年間に購入した農畜産物のうち、市内産の割合はどのくらいですか。
 (は1つだけ)



「1割未満」という回答が47.1%でいちばん多く、「1割以上～2割未満」が27.3%でそれに続いている。「5割以上」という回答はわずか1.5%しか見られない。

(1) - 7 市内産農畜産物は手に入るか
“手に入る”...約43%、「わからない」...約30%、「困難」...約23%

問 35 あなたは、市内産農畜産物を欲しいと思ったときに、簡単に手に入れたり、食べたりすることができますか。(は1つだけ)



「わからない」との回答が最も多くなっており(30.4%)、「少し苦労するが手に入る」が僅差でそれに続いている(29.0%)、「簡単に」と「少し苦労するが」を合わせ“手に入る”とする回答は42.6%である。

【居住地域別】 * 上段...人数(単位:人) 下段...構成比(単位:%)

		全体	簡単に手に入る	少し苦労するが手に入る	手に入れることは困難である	わからない	無回答
合計		1459	198	423	341	443	54
		100.0	13.6	29.0	23.4	30.4	3.7
居住地域	本庁管内(中央地域)	331	35	82	81	122	11
		100.0	10.6	24.8	24.5	36.9	3.3
	元八王子・恩方・川口(西部地域)	237	49	92	36	50	10
		100.0	20.7	38.8	15.2	21.1	4.2
	浅川・横山・館(西南部地域)	288	34	82	76	84	12
		100.0	11.8	28.5	26.4	29.2	4.2
	加住・石川(北部地域)	110	26	31	19	30	4
	100.0	23.6	28.2	17.3	27.3	3.6	
	216	28	65	57	59	7	
	100.0	13.0	30.1	26.4	27.3	3.2	
	242	20	63	64	87	8	
	100.0	8.3	26.0	26.4	36.0	3.3	

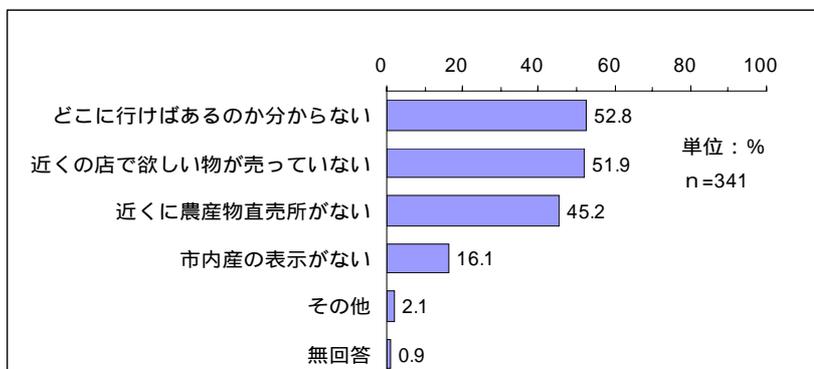
元八王子・恩方・川口(西部地域)と加住・石川(北部地域)において、“手に入る”のポイントが高くなっている。

(1) - 8 手に入りにくい理由

「どこに行けばあるのか分からない」、「近くの店で欲しい物が売っていない」が多い

(問 35 で「3 手に入れることは困難である」と答えた方に)

問 35 - 1 どのような理由で、手に入りにくいですか。(はいくつでも)



「どこに行けばあるのか分からない」という理由 (52.8%) が最も多く、僅差で「近くの店で欲しい物が売っていない」という理由 (51.9%) が続いている。第3位は「近くに農産物直売所がない」(45.2%)。

【居住地域別】

* 上段...人数 (単位：人) 下段...構成比 (単位：%)

		全体	近くの店で欲しい物が売っていない	近くに農産物直売所がない	どこに行けばあるのか分からない	市内産の表示がない	その他	無回答
合計		341 100.0	177 51.9	154 45.2	180 52.8	55 16.1	7 2.1	3 0.9
居住地域	本庁管内 (中央地域)	81 100.0	47 58.0	40 49.4	46 56.8	19 23.5	0 0.0	0 0.0
	元八王子・恩方・川口 (西部地域)	36 100.0	16 44.4	12 33.3	17 47.2	4 11.1	1 2.8	0 0.0
	浅川・横山・館 (西南部地域)	76 100.0	43 56.6	36 47.4	38 50.0	14 18.4	0 0.0	2 2.6
	加住・石川 (北部地域)	19 100.0	7 36.8	11 57.9	7 36.8	0 0.0	1 5.3	0 0.0
	由井・北野 (東南部地域)	57 100.0	30 52.6	24 42.1	28 49.1	6 10.5	3 5.3	1 1.8
	由木・由木東・南大沢 (東部地域)	64 100.0	32 50.0	26 40.6	38 59.4	12 18.8	2 3.1	0 0.0

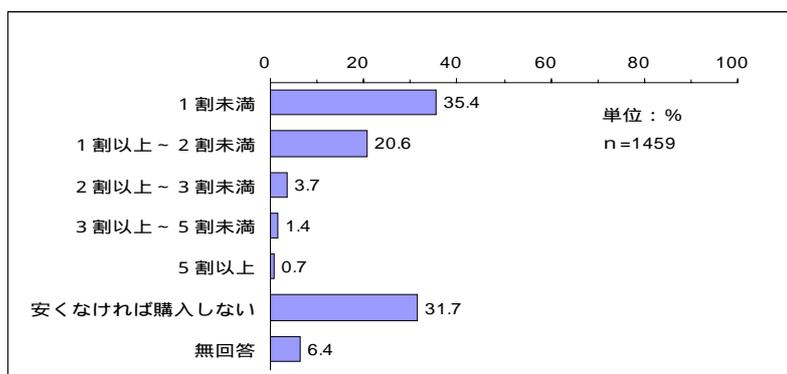
本庁管内 (中央地域) 及び由木・由木東・南大沢 (東部地域) では「どこに行けばあるのか分からない」という選択肢のポイントが高く、加住・石川 (北部地域) では「近くに農産物直売所がない」のポイントが高くなっている。また本庁管内 (中央地域) では、「市内産の表示がない」の選択肢のポイントも、市全体よりもかなり高くなっている。

浅川・横山・館 (西南部地域) で市全体と比べてポイントが高くなっているのは、「近くの店で欲しい物が売っていない」。

(1) - 9 購入する農畜産物の他産地との価格差

「安くなければ購入しない」から「2割未満」までで、9割近くを占める

問 36 あなたは、市内産の農畜産物が高産地より価格が高い場合、価格差がいくらであれば購入しますか。(は1つだけ)



「1割未満」とする回答が最も多く(35.4%)、第2位は「安くなければ購入しない」が僅差で続いている(31.7%)

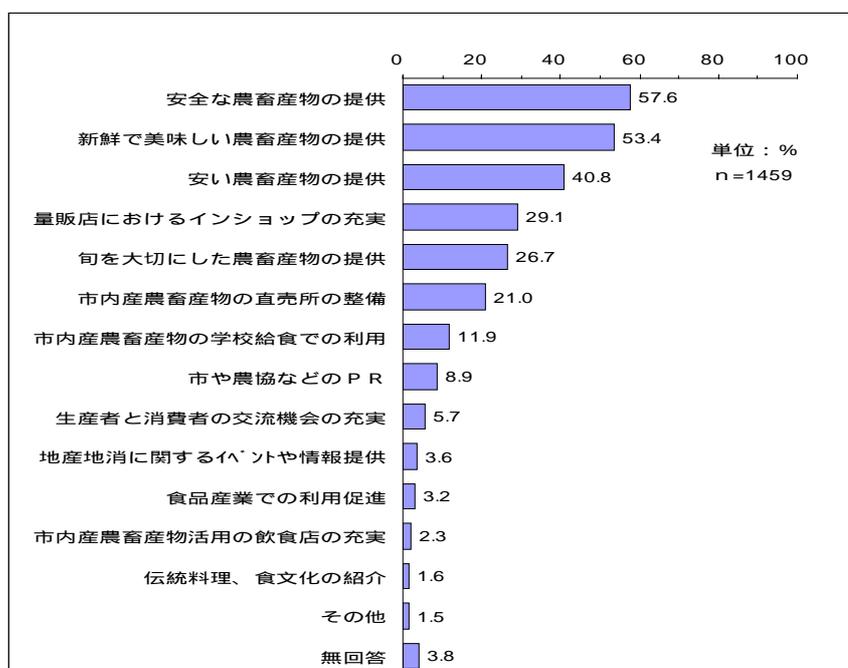
「1割以上～2割未満」(20.6%)も合わせると、「安くなければ購入しない」から、価格差があっても“2割未満”ならば購入するという人までで87.7%を占めていることが分かる。

(1) - 10 地産地消推進の取り組み

「安全」、「新鮮で美味しい」、「安い」農畜産物の提供が重要

問 37 「地産地消」を推進していくために、今後どのような取り組みが重要であると思いますか。

(は3つまで)



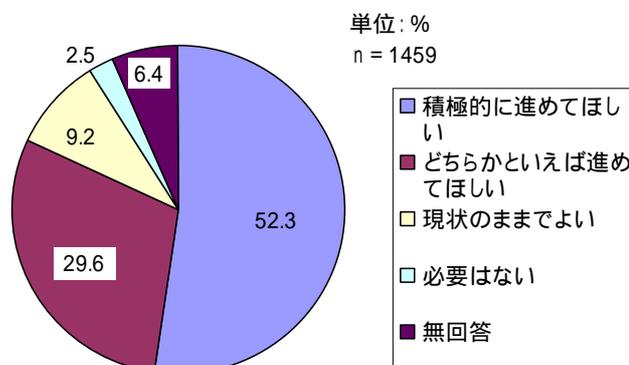
重要と思う取り組みとして、「安全な農畜産物の提供」(57.6%)、「新鮮で美味しい農畜産物の提供」(53.4%)、「安い農畜産物の提供」(40.8%)などが挙げられている。

(2) 学校給食について

(2) - 1 給食への地元生産物の利用

“進めてほしい”という意見が8割超に達する

問 38 地産地消の推進策の一つとして「学校給食への地元生産物の利用促進」がありますが、これについてあなたはどのように思いますか。(は1つだけ)



「積極的に進めてほしい」とする意見が最も多く、過半数を占めている。

なお、「どちらかといえば進めてほしい」も合わせると(= “進めてほしい”)、8割超に達する。

【居住地域別】

* 上段...人数(単位：人) 下段...構成比(単位：%)

		全体	積極的に進めてほしい	どちらかといえば進めてほしい	現状のままでよい	必要はない	無回答
合計		1459	763	432	134	36	94
		100.0	52.3	29.6	9.2	2.5	6.4
居住地域	本庁管内(中央地域)	331	169	105	36	7	14
		100.0	51.1	31.7	10.9	2.1	4.2
	元八王子・恩方・川口(西部地域)	237	130	71	14	7	15
		100.0	54.9	30.0	5.9	3.0	6.3
	浅川・横山・館(西南部地域)	288	151	90	24	5	18
		100.0	52.4	31.3	8.3	1.7	6.3
	加住・石川(北部地域)	110	63	26	11	1	9
	100.0	57.3	23.6	10.0	0.9	8.2	
	216	112	68	15	8	13	
	100.0	51.9	31.5	6.9	3.7	6.0	
	242	125	60	31	7	19	
	100.0	51.7	24.8	12.8	2.9	7.9	

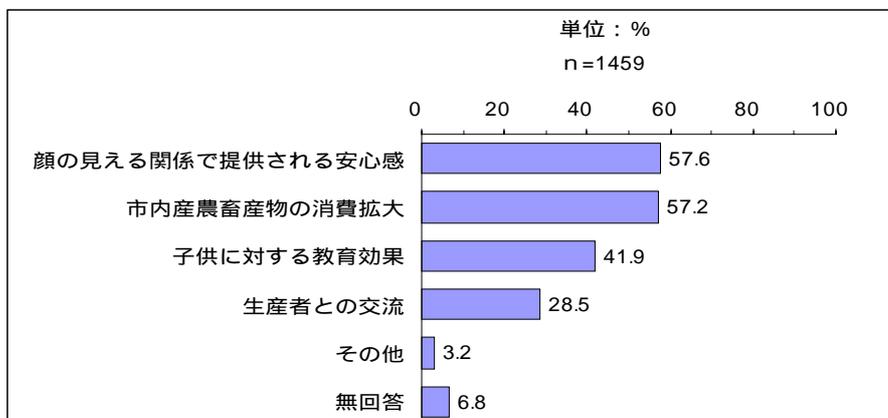
由木・由木東・南大沢(東部地域)では、「積極的に進めてほしい」の割合は他地域とあまり変わりがなく、「どちらかといえば進めてほしい」の割合が比較的小さいため、その結果、両方を合わせた“進めてほしい”のポイントが他の地域や市全体と比べて低くなっている。また「現状のままでよい」のポイントが他の地域や市全体より高くなっている。

(2) - 2 市内産農畜産物の利用で期待すること

「顔の見える関係で提供される安心感」と「市内産農畜産物の消費拡大」に期待

問 39 本市の学校給食において、市内産農畜産物を利用することにより何を期待しますか。

(は3つまで)



「顔の見える関係で提供される（ことによる）安心感」（57.6%）と「市内産農畜産物の消費拡大」（57.2%）が多く挙げられている。

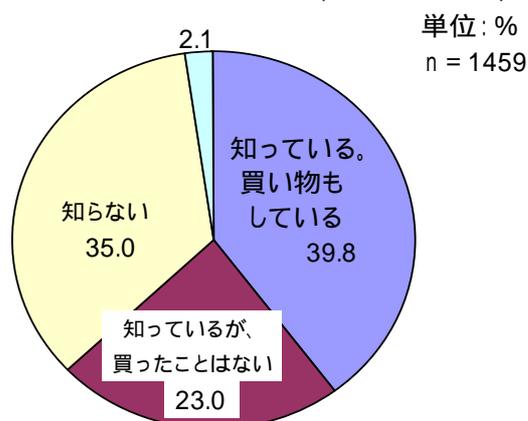
「子供に対する教育効果」は41.9%。

(3) 農産物直売所について

(3) - 1 農産物直売所の認知度

「知っている買い物もしている」が約4割で、最も多い

問 40 市内には、農家の方々が生産した新鮮な野菜などを販売している農産物の直売所がありますが、あなたは農産物直売所を知っていますか。(は1つだけ)



「知っている。買い物もしている」が約4割と最も多いが、「知らない」（35.0%）も僅差で続いている。

また、60%超の人が農産物直売所のことを「知っている」ことが分かる。

【居住地域別】

* 上段...人数(単位:人) 下段...構成比(単位:%)

		全体	知っている。買い物もしている	知らない	知っているが、買ったことはない	無回答
合計		1459 100.0	581 39.8	511 35.0	336 23.0	31 2.1
F9 居住地域	本庁管内(中央地域)	331 100.0	106 32.0	146 44.1	70 21.1	9 2.7
	元八王子・恩方・川口(西部地域)	237 100.0	146 61.6	38 16.0	45 19.0	8 3.4
	浅川・横山・館(西南部地域)	288 100.0	96 33.3	130 45.1	58 20.1	4 1.4
	加住・石川(北部地域)	110 100.0	61 55.5	24 21.8	23 20.9	2 1.8
	由井・北野(東南部地域)	216 100.0	83 38.4	64 29.6	65 30.1	4 1.9
	由木・由木東・南大沢(東部地域)	242 100.0	74 30.6	98 40.5	67 27.7	3 1.2

元八王子・恩方・川口(西部地域)及び加住・石川(北部地域)において、「知っている。買い物もしている」のポイントが高くなっており、市全体を15ポイント以上上回っている。

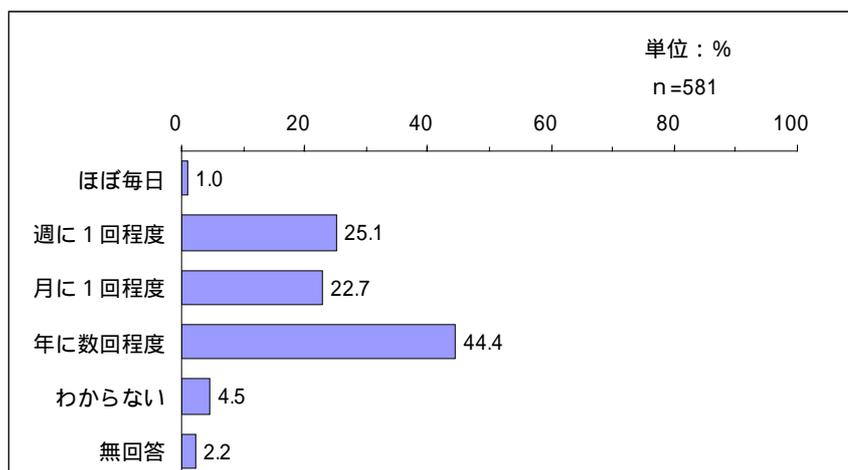
「知らない」は浅川・横山・館(西南部地域)及び本庁管内(中央地域)で多くっており、市全体を約10ポイント上回っている。

(3) - 2 直売所で購入する頻度

「年に数回程度」という人が最も多い

(問40で、「1 知っている。買い物もしている」とお答えの方に)

問40 - 1 農産物直売所で購入する頻度はどのくらいですか。(は1つだけ)



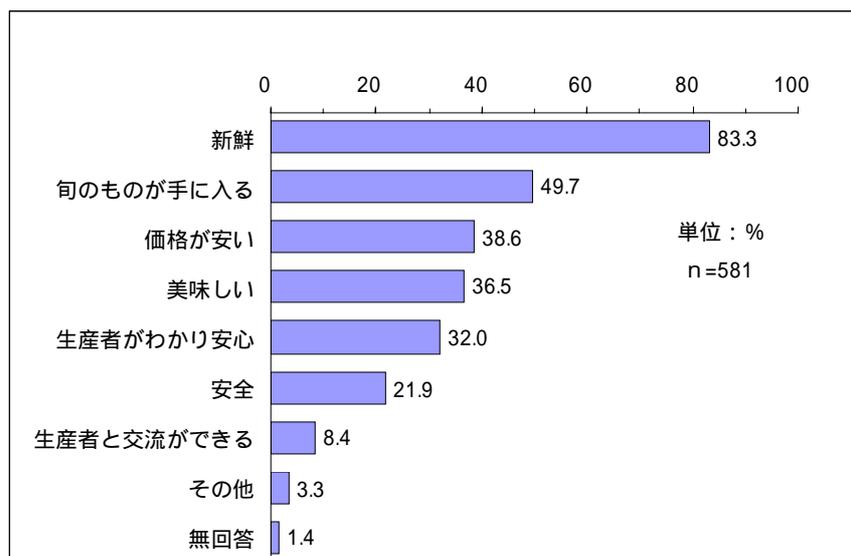
「年に数回程度」という回答が最も多く(44.4%)、半数近くを占めている。

次いで多いのは「週に1回程度」(25.1%)で、第3位は「月に1回程度」(22.7%)。

(3) - 3 直売所で購入する理由

「新鮮」、「旬のものが手に入る」から

問 40 - 2 農産物直売所で購入する理由は何ですか。(はいいくつでも)

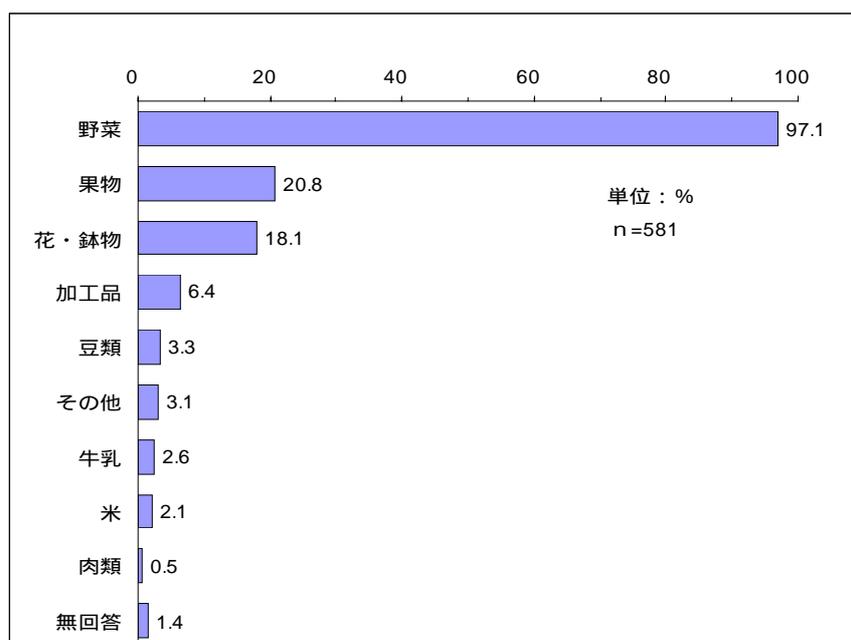


「新鮮」だから、とした回答が最も多く、8割超を占めている。
次いで多い回答は、半数近くを占める「旬のものが手に入る」(49.7%)、
第3位は「価格が安い」(38.6%)。

(3) - 4 直売所で購入する品目

「野菜」が圧倒的に多い 第2位は「果物」

問 40 - 3 農産物直売所で購入する品目は何か。(はいいくつでも)



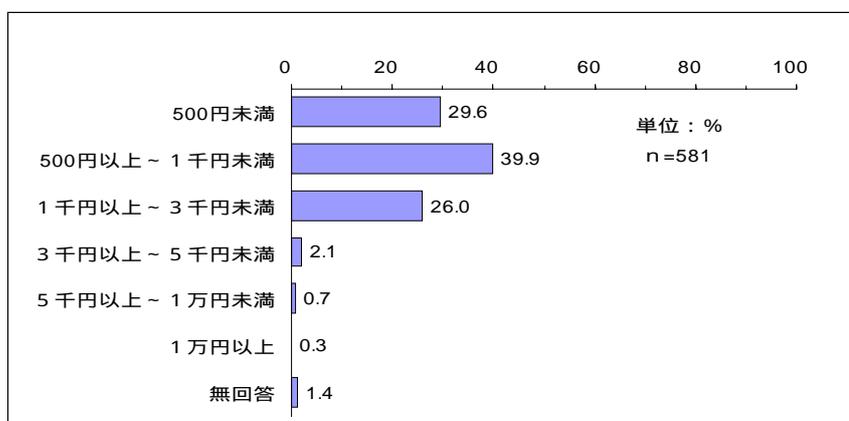
「野菜」という答えが圧倒的に多く、97.1%を占めている。
第2位は「果物」(20.8%)で、第3位は「花・鉢物」(18.1%)となっている。

(3) - 5 直売所で購入する金額

「500円以上～1千円未満」の購入金額が最も多い

問40 - 4 農産物直売所で購入する1回あたりの購入金額はどのくらいですか。

(は1つだけ)



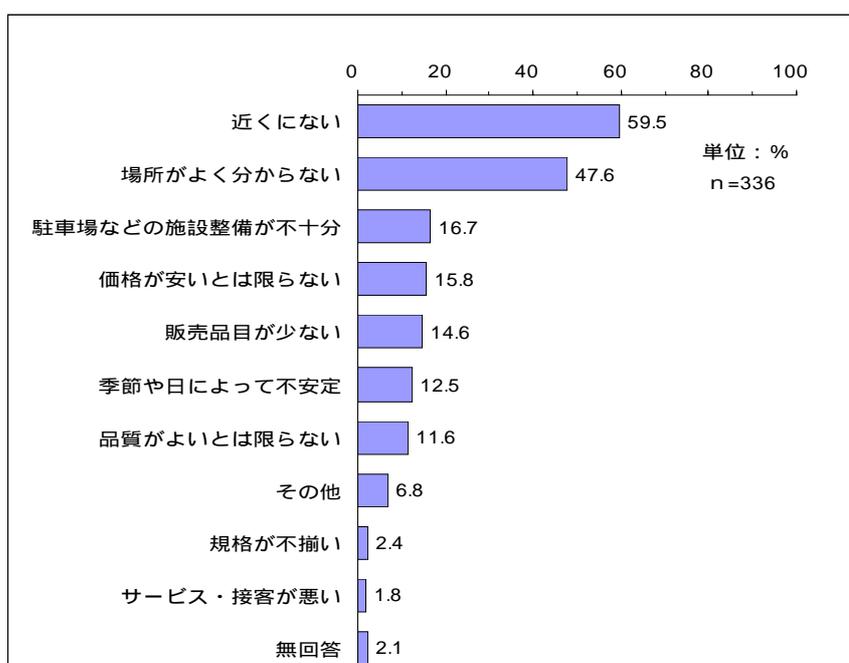
「500円以上～1千円未満」との回答がいちばん多く(39.9%)、「500円未満」(29.6%)がそれに続いている。「1千円以上～3千円未満」も合算し、「3千円未満」までの選択肢で、全体の95.5%を占める。

(3) - 6 直売所を利用しない理由

「近くにない」「場所がよく分からない」から

(問40で「3 名称は知っているが、買い物はしたことがない」とお答えの方に)

問40 - 5 農産物直売所を利用しない理由は何ですか。(はいくつでも)



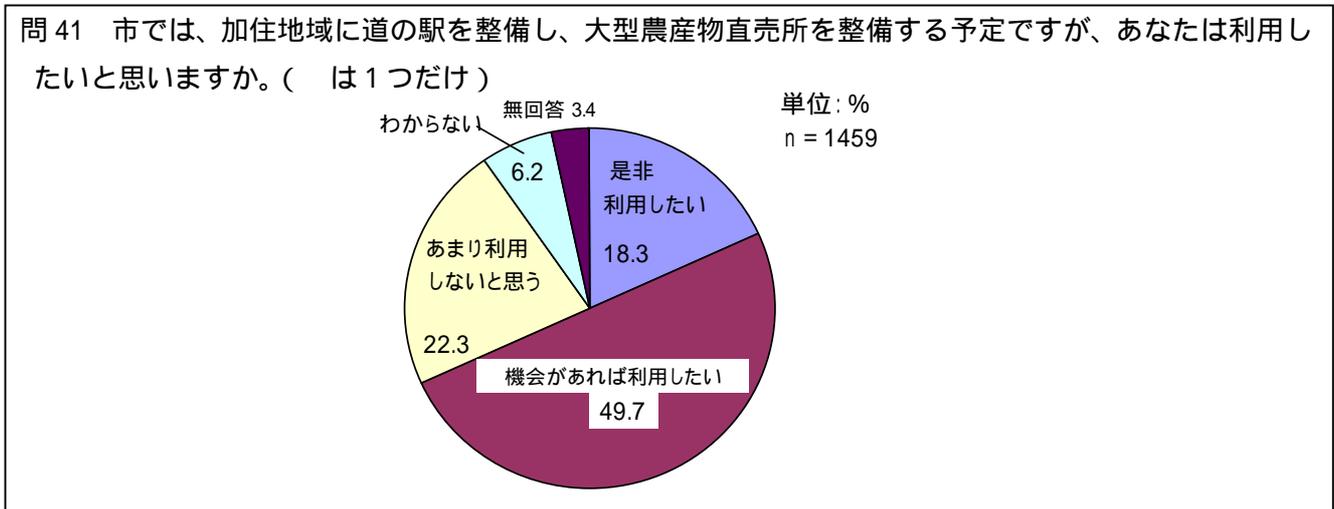
「近くにない」からという回答が最も多く6割弱を占めている。次いで多いのが半数弱の「場所がよく分からない」。

(4) 道の駅に併設する大型農産物直売所について

「道の駅」とは、道路を快適に利用できるよという発想から生まれ、休憩のためのパーキングエリアとして、また、地域の文化や歴史、名所や特産物などの魅力を紹介する情報発信基地として、地域住民と道路を利用する人々をつなぐ地域に根ざしたふれあいの場所です。

(4) - 1 道の駅の利用意向

“利用したい”人が7割弱



「機会があれば利用したい」という人が半数弱(49.7%)で、最も多くなっている。次いで多いのは「あまり利用しないと思う」(22.3%)で、「是非利用したい」は18.3%である。「是非」と「機会があれば」を合わせ“利用したい”と答えた人の割合は68.0%。

【居住地域別】

* 上段...人数(単位：人) 下段...構成比(単位：%)

		全体	是非利用 したい	機会があ れば利用 したい	あまり利 用しない と思う	わから ない	無回答
合計		1459 100.0	267 18.3	725 49.7	326 22.3	91 6.2	50 3.4
居住 地域	F9 本庁管内(中央地 域)	331 100.0	63 19.0	152 45.9	85 25.7	20 6.0	11 3.3
	元八王子・恩方・ 川口(西部地域)	237 100.0	48 20.3	113 47.7	46 19.4	16 6.8	14 5.9
	浅川・横山・館 (西南部地域)	288 100.0	43 14.9	156 54.2	58 20.1	21 7.3	10 3.5
	加住・石川(北部 地域)	110 100.0	37 33.6	50 45.5	18 16.4	3 2.7	2 1.8
	由井・北野(東南 部地域)	216 100.0	33 15.3	109 50.5	54 25.0	13 6.0	7 3.2
	由木・由木東・南 大沢(東部地域)	242 100.0	39 16.1	127 52.5	58 24.0	13 5.4	5 2.1

「是非利用したい」のポイントは加住・石川(北部地域)で圧倒的に高く、また、元八王子・恩方・川口(西部地域)や本庁管内(中央地域)でもやや高くなっている。

「機会があれば利用したい」は浅川・横山・館(西南部地域)でポイントが高く、市全体を4.5ポイント上回っている。

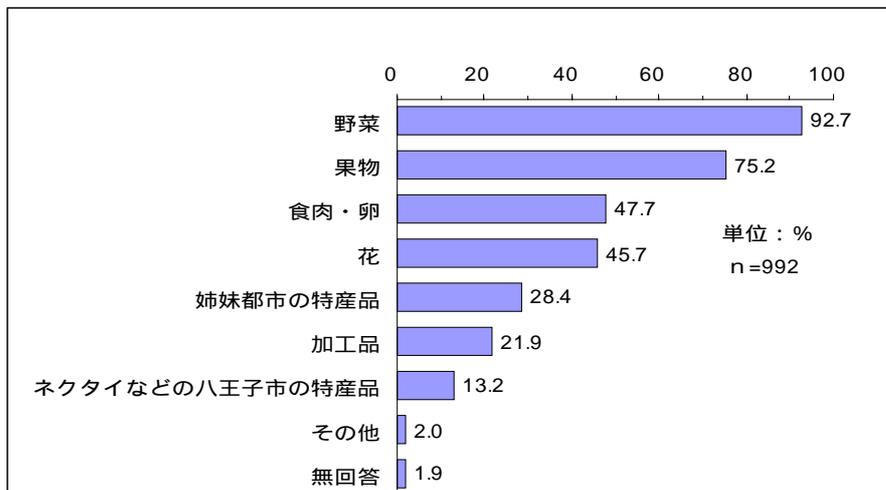
(4) - 2 直売所に期待する品目

「野菜」(9割超)「果物」(7割5分)の答えが多い

(問41で「1 是非利用したい」または「2 機会があれば利用したい」とお答えの方に)

問41-1 あなたは、道の駅に併設する大型農産物直売所にどんな品物があれば買いに行きますか。

(はいくつでも)



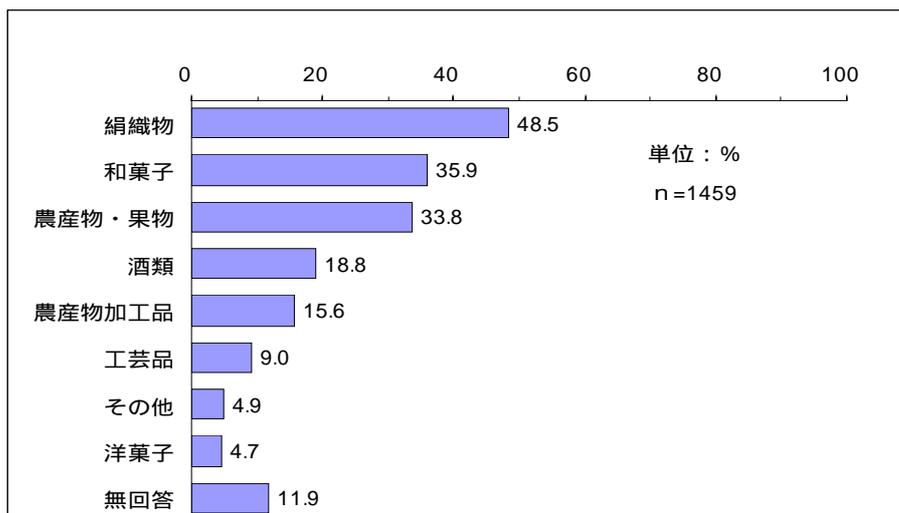
「野菜」という回答が圧倒的に多く90%超を占めている。

次いで「果物」という答えが多く(75.2%)、「食肉・卵」、「花」などがそれに続いている。

(4) - 3 八王子のイメージの品物

八王子のお土産 = 「絹織物」、「和菓子」、「農産物・果物」等のイメージ

問42 道の駅に併設する大型農産物直売所で八王子関連の特産品を販売することも検討しているところですが、あなたが八王子のお土産としてイメージするのはどんな品物ですか。(はいくつでも)



半分弱が「絹織物」を回答している。

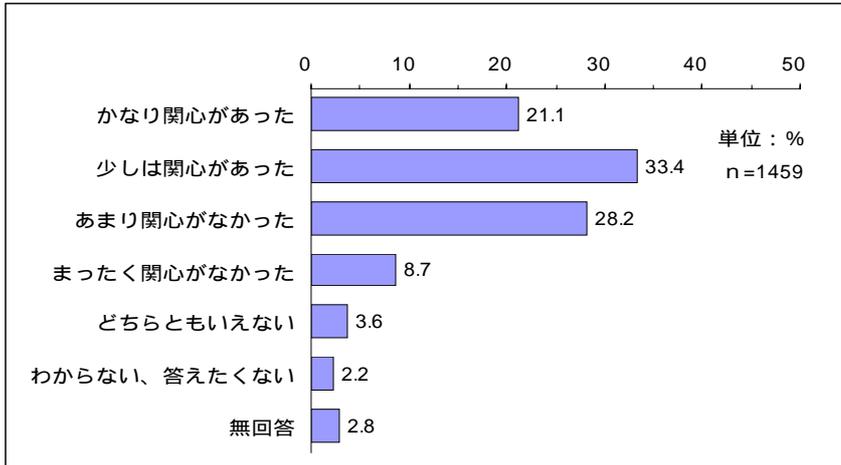
次いで「和菓子」(35.9%)、「農産物・果物」(33.8%)が多く挙げられ、さらに「酒類」(18.8%)等がそれらに続いている。

7 市政選挙

(1) 市政選挙への関心の有無

“関心があった”という人約55%、“関心がなかった”人約37%

問43 平成15年4月に市議会議員選挙が、16年1月に市長選挙がありました。あなたはこの選挙に関心がありましたか。(は1つだけ)



「少しは関心があった」(33.4%)との回答が最も多いが、第2位には「あまり関心がなかった」(28.2%)が入っている。

「かなり」と「少しは」を合わせて“関心があった”とする人の割合は54.5%、「あまり」と「まったく」を合算して“関心がなかった”とする人の割合は36.9%となっている。

【性別/年齢別】

* 上段...人数(単位：人) 下段...構成比(単位：%)

		全体	かなり関心があった	少しは関心があった	あまり関心がなかった	まったく関心がなかった	どちらともいえない	わからない、答えたくない	無回答
合計		1459	308	487	411	127	53	32	41
		100.0	21.1	33.4	28.2	8.7	3.6	2.2	2.8
性別	F1 男性	636	147	211	177	57	11	11	22
		100.0	23.1	33.2	27.8	9.0	1.7	1.7	3.5
性別	女性	790	152	266	227	67	39	21	18
		100.0	19.2	33.7	28.7	8.5	4.9	2.7	2.3
年齢	F2 20歳代	175	18	48	66	27	10	6	0
		100.0	10.3	27.4	37.7	15.4	5.7	3.4	0.0
	30歳代	269	33	87	84	41	10	11	3
		100.0	12.3	32.3	31.2	15.2	3.7	4.1	1.1
	40歳代	225	30	82	70	23	11	2	7
		100.0	13.3	36.4	31.1	10.2	4.9	0.9	3.1
	50歳代	291	53	106	94	15	8	6	9
	100.0	18.2	36.4	32.3	5.2	2.7	2.1	3.1	
年齢	60～64歳	169	52	55	43	7	7	0	5
		100.0	30.8	32.5	25.4	4.1	4.1	0.0	3.0
	65歳以上	298	111	102	46	11	5	7	16
	100.0	37.2	34.2	15.4	3.7	1.7	2.3	5.4	

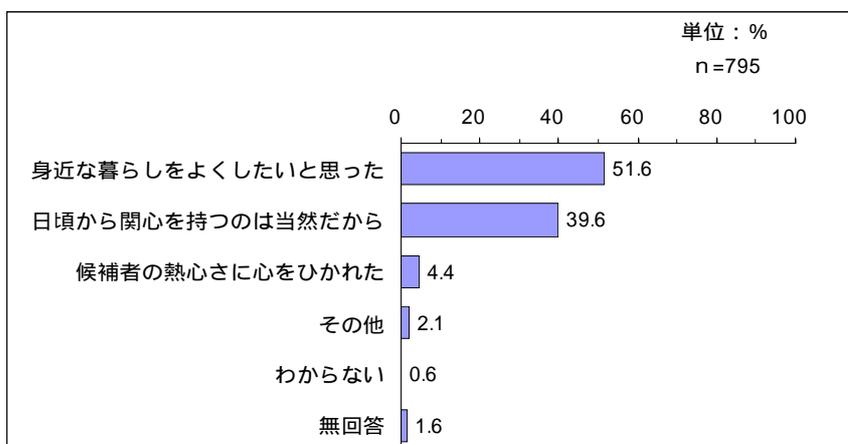
「かなり関心があった」という回答は女性より男性のポイントが高く、また年齢が上昇するほど割合が大きくなっている。「どちらともいえない」は女性が男性より3.2ポイント高い。

(2) 選挙に関心を持った理由

「身近な暮らしをよくしたい」から・「関心を持つのが当然だから」

(問43で、「1 かなり関心があった」または「2 少しは関心があった」とお答えの方に)

問43-1 あなたがこれらの選挙に関心を持った主な理由は何ですか。(は1つだけ)



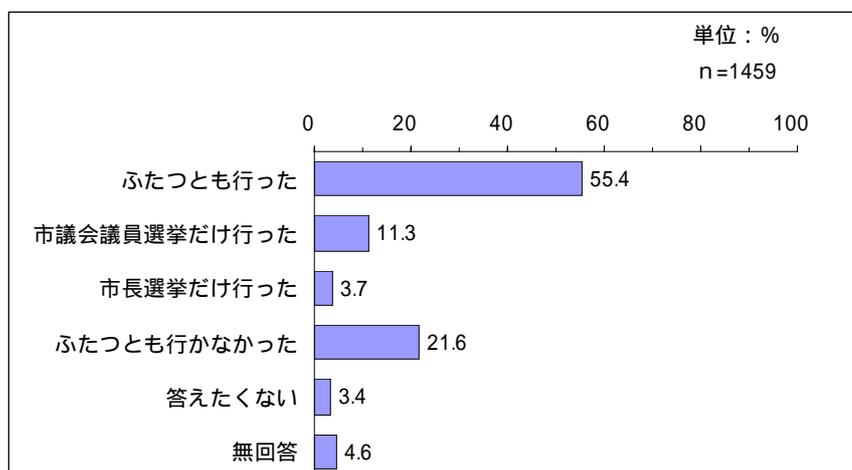
「身近な暮らしをよくしたいと思った」から(第1位・51.6%)、「日頃から関心を持つのは当然だから」(第2位・39.6%)という答えが多くなっている。

(3) 選挙で実際に投票に行ったか

「ふたつとも行った」という回答が過半数

問44 あなたは、その市議会議員選挙や市長選挙で投票に行きましたか。

(は1つだけ)



「ふたつとも行った」との回答が55.4%と最も多いが、2番目に多いのは「ふたつとも行かなかった」(21.6%)となっている。

いずれか一方だけ行ったという人の中では、「市議会議員選挙だけ」という人(11.3%)の方が、「市長選挙だけ」という人(3.7%)よりも多い。

【性別 / 年齢別 / 居住地域別】

* 上段...人数 (単位:人) 下段...構成比 (単位:%)

		全体	ふたつとも行った	市議会議員選挙だけ行った	市長選挙だけ行った	ふたつとも行かなかった	答えたくない	無回答
合計		1459 100.0	808 55.4	165 11.3	54 3.7	315 21.6	50 3.4	67 4.6
F1 性別	男性	636 100.0	370 58.2	64 10.1	23 3.6	140 22.0	16 2.5	23 3.6
	女性	790 100.0	421 53.3	100 12.7	30 3.8	170 21.5	31 3.9	38 4.8
F2 年齢	20歳代	175 100.0	63 36.0	20 11.4	12 6.9	69 39.4	8 4.6	3 1.7
	30歳代	269 100.0	118 43.9	34 12.6	8 3.0	84 31.2	10 3.7	15 5.6
	40歳代	225 100.0	118 52.4	31 13.8	10 4.4	48 21.3	11 4.9	7 3.1
	50歳代	291 100.0	158 54.3	46 15.8	9 3.1	56 19.2	11 3.8	11 3.8
	60～64歳	169 100.0	119 70.4	13 7.7	5 3.0	24 14.2	3 1.8	5 3.0
	65歳以上	298 100.0	217 72.8	20 6.7	9 3.0	28 9.4	4 1.3	20 6.7
	F9 居住地域	本庁管内(中央地域)	331 100.0	178 53.8	42 12.7	11 3.3	65 19.6	18 5.4
元八王子・恩方・川口(西部地域)		237 100.0	134 56.5	36 15.2	11 4.6	43 18.1	6 2.5	7 3.0
浅川・横山・館(西南部地域)		288 100.0	160 55.6	26 9.0	13 4.5	67 23.3	6 2.1	16 5.6
加住・石川(北部地域)		110 100.0	65 59.1	11 10.0	3 2.7	23 20.9	2 1.8	6 5.5
由井・北野(東南部地域)		216 100.0	133 61.6	21 9.7	8 3.7	40 18.5	7 3.2	7 3.2
由木・由木東・南大沢(東部地域)		242 100.0	120 49.6	26 10.7	7 2.9	68 28.1	9 3.7	12 5.0

「ふたつとも行った」の割合が、男性で女性よりも大きく、約5ポイントの差がみられる。

年齢別でみると、20歳代では「ふたつとも行かなかった」の割合が最も大きく(39.4%)、「ふたつとも行った」(36.0%)を上回るが、「ふたつとも行った」は年齢の上昇とともに割合を増し、60～64歳と65歳以上では70%を超えている。

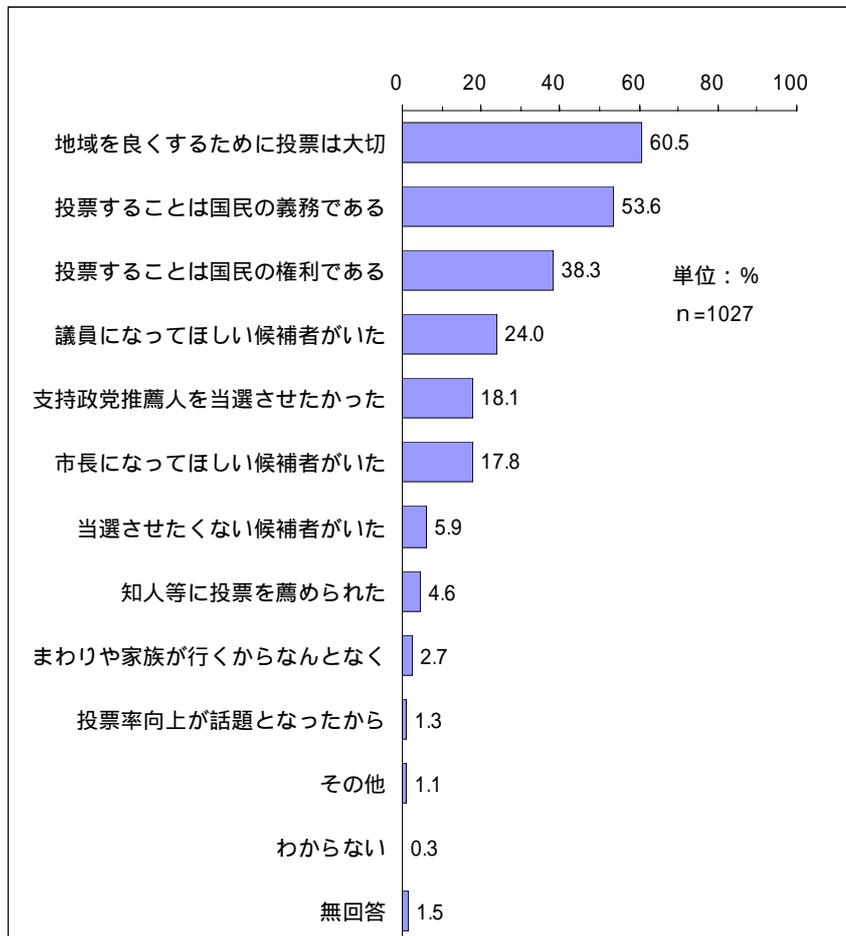
居住地域別では、由木・由木東・南大沢(東部地域)で「ふたつとも行った」のポイントが他の地域や市全体より低く、「ふたつとも行かなかった」のポイントが高くなっている。

(4) 投票に行った主な理由

「地域を良くするために投票は大切」だと思うから、が最多

(問 44 で、「1 ふたつとも行った」「2 市議会議員選挙だけ行った」「3 市長選挙だけ行った」とお答えの方に)

問 44 - 1 あなたが投票に行かれた主な理由は、次のどれですか。(はいくつでも)



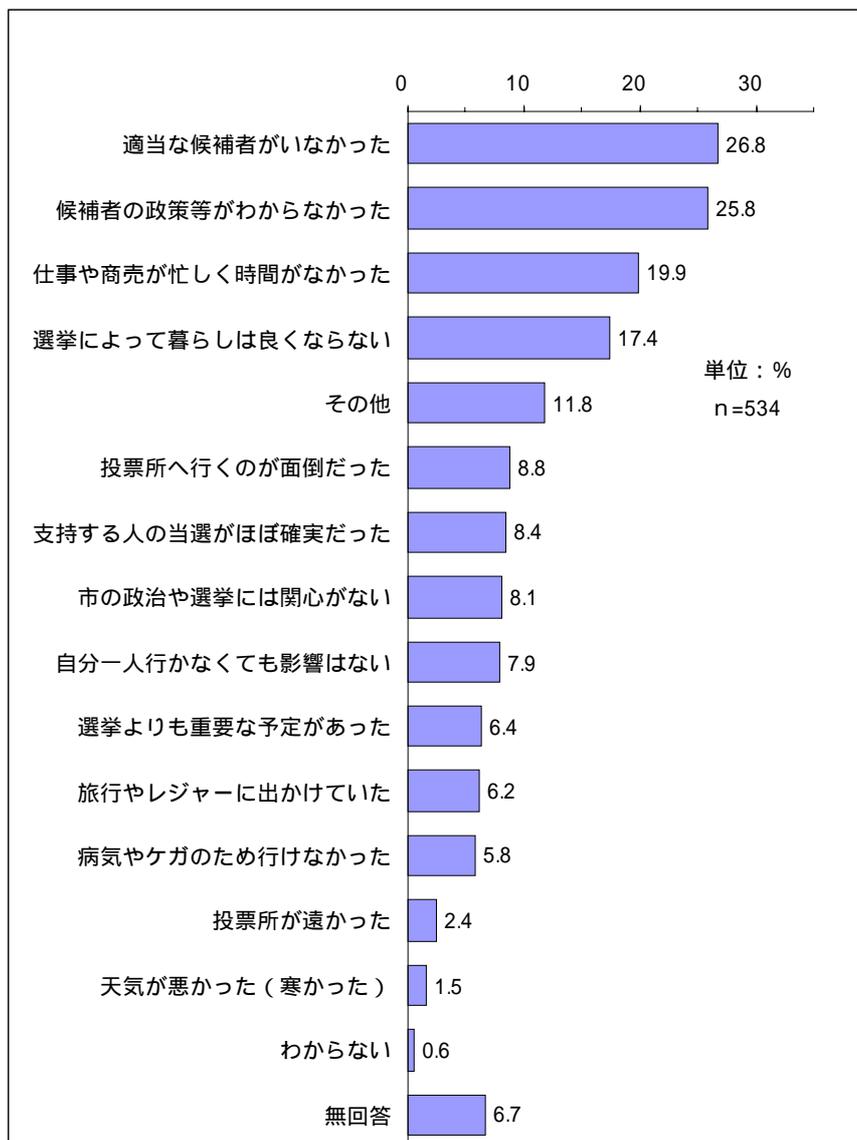
「地域を良くするために投票は大切」だと思うから、との回答が最も多くなっている(60.5%)、第2位は「投票することは国民の義務である」と思うから(53.6%)。

(5) 投票に行かなかった主な理由

「**適当な候補者がいなかった**」、「**候補者の政策等がわからなかった**」
など

(問44で、「2 市議会議員選挙だけ行った」「3 市長選挙だけ行った」「4 ふたつとも行かなかった」とお答えの方に)

問44-2 あなたがふたつとも、またはどちらか、投票に行かなかった主な理由は次のどれですか。(はいくつでも)

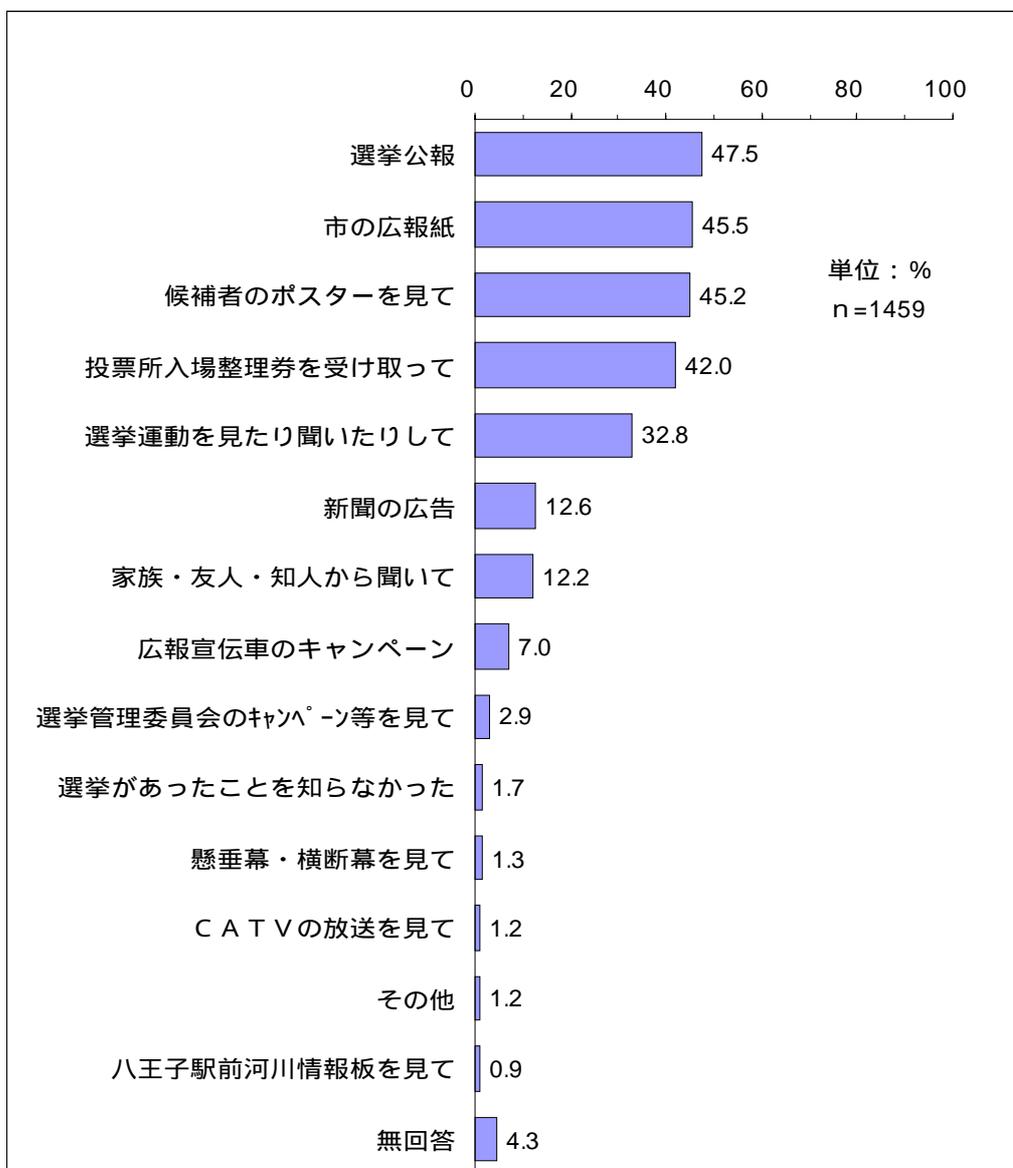


「**適当な候補者がいなかった**」こと(26.8%)、「**候補者の政策等がわからなかった**」こと(25.8%)、「**仕事や商売が忙しく時間がなかった**」こと(19.9%)などが多く挙げられている。

(6) 選挙のことをどこで知ったか

「選挙公報」、「市の広報紙(選挙特集号)」、「候補者のポスター」を通じて、が多い

問 45 あなたは、市議会議員選挙や市長選挙が行われることをどこで知りましたか。(はいくつでも)

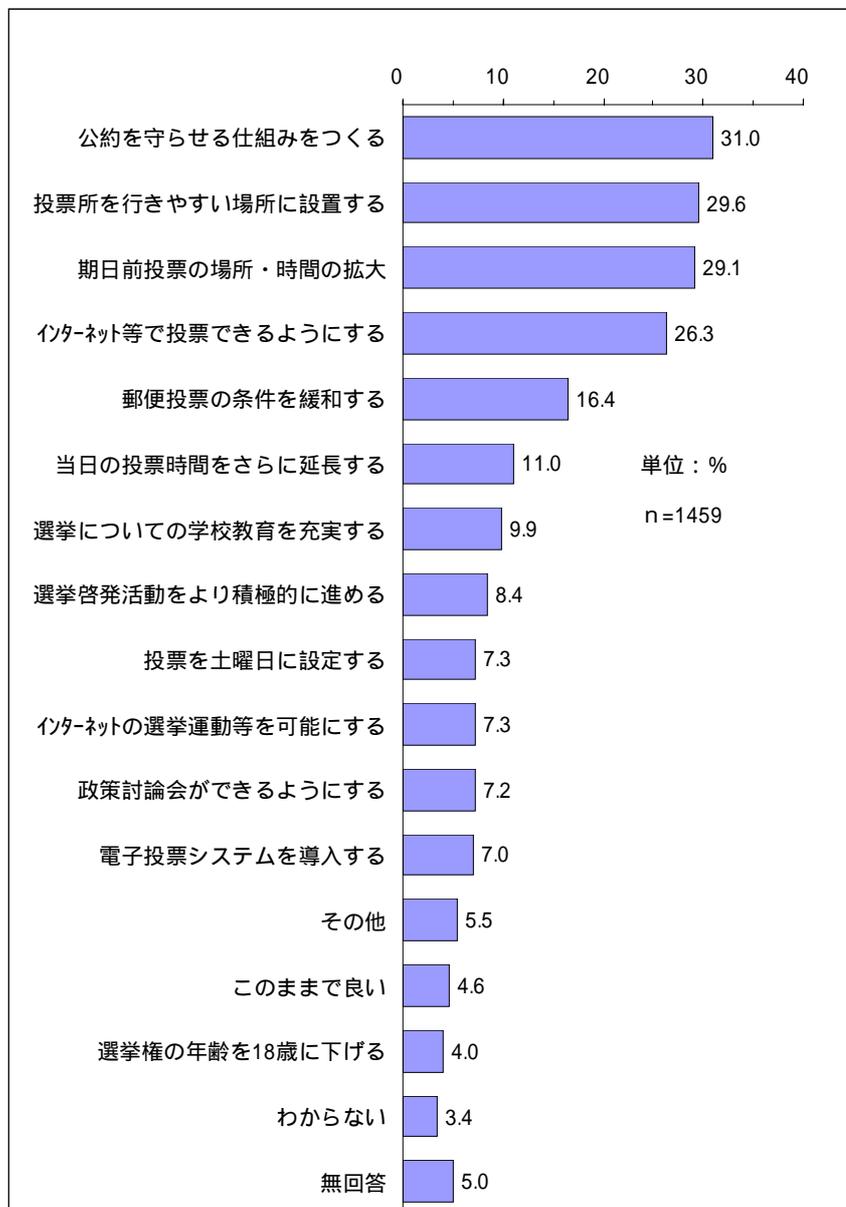


「選挙公報」という答えが 40%台後半 (47.5%) で最も多く、第2、3位には 45%台の「市の広報紙(選挙特集号)」(45.5%)、「候補者のポスターを見て」(45.2%) がそれぞれ入っている。

(7) 投票率を上げるための改善策

「候補者に公約を守らせるような仕組みをつくる」との回答が最多

問 46 投票率を上げるために、これまで投票時間の延長や不在者投票をしやすいするなど改善が行われてきましたが、さらに投票率を上げるための改善策として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(は3つまで)



「候補者に公約を守らせる仕組みをつくる」という回答がいちばん多くみられる(31.0%)。以下、「投票所を駅やコンビニエンスストアなど行きやすい場所に設置する」(29.6%)、「期日前投票の場所・時間の拡大」(29.1%)、「インターネット等で投票できるようにする」(26.3%)などの答えが多く挙げられている。

【性別／年齢別／居住地域別】

* 上段...人数(単位:人) 下段...構成比(単位:%)

「わからない」・無回答を除く

		全体	当日の投票時間をさらに延長する	投票を土曜日に設定する	期日前投票の場所・時間の拡大	電子投票システムを導入する	投票所を行きやすい場所に設置する	インターネット等で投票できるようにする	郵便投票の条件を緩和する	政策討論会ができるようにする	インターネットの選挙運動等を可能にする	公約を守らせる仕組みをつくる	選挙についての学校教育を充実する	選挙啓発活動をより積極的に進める	選挙権の年齢を18歳に下げ	その他	このままで良い
合計		1459 100.0	161 11.0	106 7.3	425 29.1	102 7.0	432 29.6	383 26.3	240 16.4	105 7.2	106 7.3	453 31.0	145 9.9	122 8.4	59 4.0	80 5.5	67 4.6
性別	男性	636 100.0	70 11.0	50 7.9	191 30.0	55 8.6	177 27.8	165 25.9	96 15.1	67 10.5	51 8.0	218 34.3	60 9.4	60 9.4	31 4.9	49 7.7	33 5.2
	女性	790 100.0	87 11.0	53 6.7	226 28.6	43 5.4	244 30.9	210 26.6	141 17.8	35 4.4	55 7.0	226 28.6	85 10.8	62 7.8	24 3.0	30 3.8	33 4.2
年齢	20歳代	175 100.0	28 16.0	14 8.0	49 28.0	10 5.7	67 38.3	69 39.4	26 14.9	8 4.6	20 11.4	57 32.6	23 13.1	7 4.0	5 2.9	11 6.3	2 1.1
	30歳代	269 100.0	20 7.4	22 8.2	79 29.4	21 7.8	109 40.5	118 43.9	48 17.8	11 4.1	36 13.4	78 29.0	19 7.1	11 4.1	7 2.6	13 4.8	5 1.9
	40歳代	225 100.0	23 10.2	10 4.4	64 28.4	14 6.2	75 33.3	85 37.8	33 14.7	16 7.1	25 11.1	73 32.4	24 10.7	12 5.3	11 4.9	14 6.2	7 3.1
	50歳代	291 100.0	30 10.3	19 6.5	99 34.0	14 4.8	89 30.6	51 17.5	50 17.2	23 7.9	18 6.2	94 32.3	20 6.9	33 11.3	10 3.4	17 5.8	10 3.4
	60～64歳	169 100.0	22 13.0	10 5.9	52 30.8	14 8.3	33 19.5	21 12.4	31 18.3	15 8.9	3 1.8	51 30.2	23 13.6	22 13.0	7 4.1	12 7.1	13 7.7
	65歳以上	298 100.0	33 11.1	30 10.1	75 25.2	23 7.7	48 16.1	31 10.4	49 16.4	28 9.4	4 1.3	92 30.9	35 11.7	37 12.4	18 6.0	12 4.0	29 9.7
居住地域	本庁管内(中央地域)	331 100.0	37 11.2	21 6.3	108 32.6	23 6.9	105 31.7	85 25.7	51 15.4	28 8.5	23 6.9	104 31.4	29 8.8	35 10.6	16 4.8	15 4.5	12 3.6
	元八王子・恩方・川口(西部地域)	237 100.0	32 13.5	13 5.5	66 27.8	18 7.6	60 25.3	39 16.5	41 17.3	14 5.9	15 6.3	73 30.8	28 11.8	22 9.3	11 4.6	19 8.0	12 5.1
	浅川・横山・館(西南部地域)	288 100.0	32 11.1	24 8.3	83 28.8	17 5.9	79 27.4	57 19.8	42 14.6	25 8.7	12 4.2	95 33.0	33 11.5	25 8.7	6 2.1	16 5.6	18 6.3
	加住・石川(北部地域)	110 100.0	16 14.5	10 9.1	31 28.2	6 5.5	31 28.2	31 28.2	27 24.5	3 2.7	4 3.6	34 30.9	8 7.3	8 7.3	4 3.6	3 2.7	5 4.5
	由井・北野(東南部地域)	216 100.0	23 10.6	15 6.9	64 29.6	21 9.7	77 35.6	74 34.3	30 13.9	14 6.5	15 6.9	58 26.9	21 9.7	19 8.8	6 2.8	11 5.1	11 5.1
	由木・由木東・南大沢(東部地域)	242 100.0	19 7.9	21 8.7	68 28.1	14 5.8	72 29.8	87 36.0	42 17.4	19 7.9	35 14.5	78 32.2	24 9.9	12 5.0	14 5.8	15 6.2	6 2.5

「電子投票システムを導入する」、「政策討論会ができるようにする」などの選択肢は、女性よりも男性で多くの支持を得ている。他方、「投票所を行きやすい場所に設置する」、「郵便投票の条件を緩和する」等の選択肢については、男性よりも女性に多くの支持を得ている。

「候補者に公約を守らせる仕組みをつくる」は、すべての年代層でまんべんなく支持されていることが分かる。

20歳代から40歳代までの人では、「投票所を行きやすい場所に設置する」や「インターネット等で投票できるようにする」のポイントが、全体や他の年齢層と比べてかなり高くなっている。

加住・石川(北部地域)では、「郵便投票の条件を緩和する」、「当日の投票時間をさらに延長する」のポイントが、市全体や他の地域と比べて高くなっている。

由井・北野(東南部地域)では、「投票所を行きやすい場所に設置する」、「インターネット等で投票できるようにする」のポイントが高くなっている。

由木・由木東・南大沢(東部地域)では「インターネットの選挙運動等を可能にする」のポイントが、市全体のほぼ2倍近くと、高くなっている。

8 スポーツ振興の推進

(1) 運動・スポーツを行う場所や機会

「個人で自由に運動している」、「全く運動していない」が多い

問 47 あなたは、どのような場所や機会で、どのくらい運動・スポーツを行っていますか。

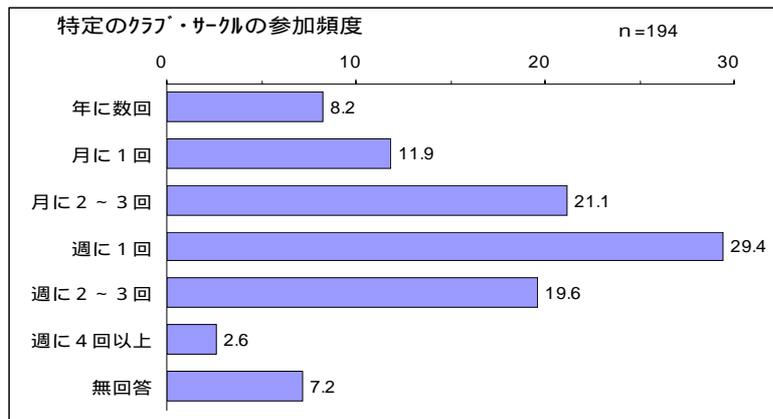
あてはまる番号に全て をつけ、実施回数を下の欄から選び、その数字を記入してください。

No.	カテゴリー名	基数(人)	構成比(%)
1	特定のクラブ・サークルに参加	194	13.3
2	複数のクラブ・サークルに参加	21	1.4
3	大会や競技会に参加	62	4.2
4	教室に参加	58	4.0
5	個人で自由に行っている	670	45.9
6	民間スポーツクラブ等に参加	82	5.6
7	全く運動していない	414	28.4
	無回答	119	8.2
	全体	1459	100.0

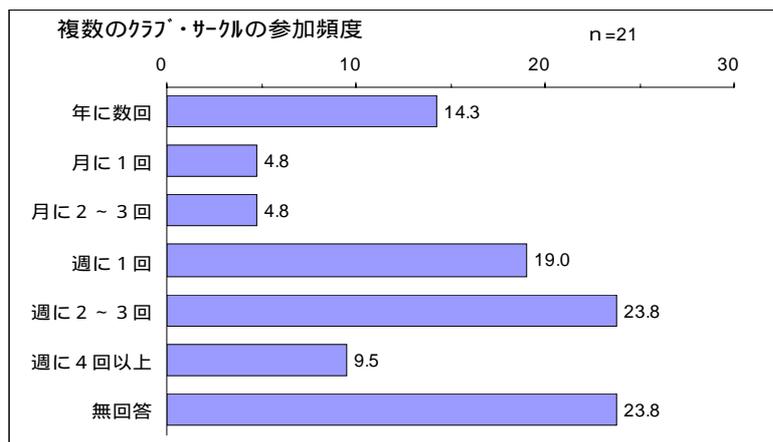
場所や機会としては、「個人で自由に運動している」という人が圧倒的に多く、45.9%を占めている。

次いで多いのは「全く運動していない」の28.4%となっている。

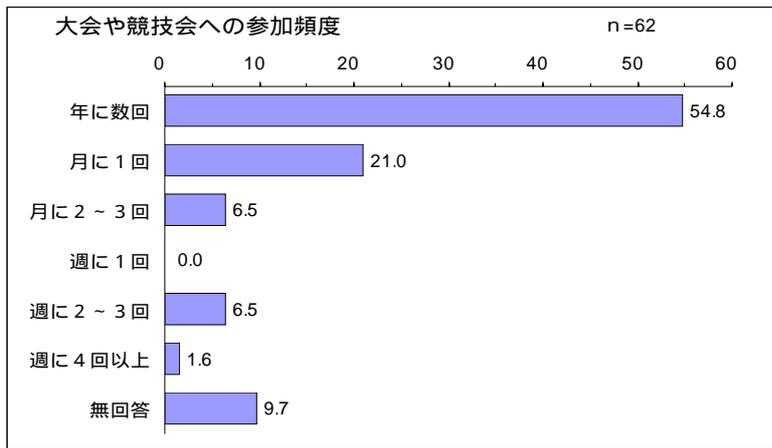
【頻度】[* 単位 : %]



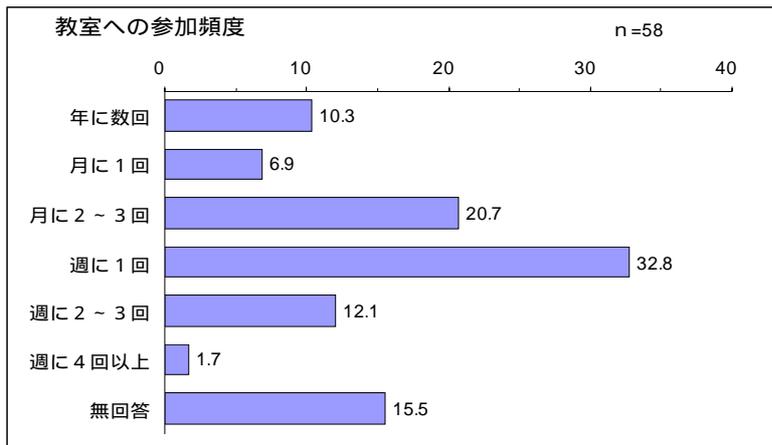
「週に1回」が29.4%と、最も多くなっている。



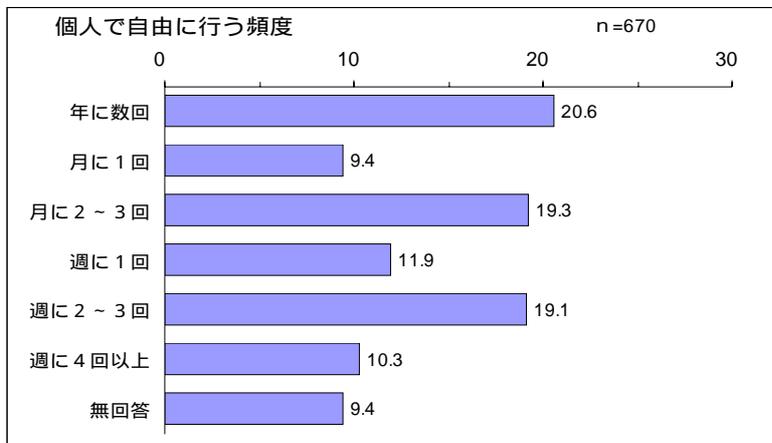
無回答のほか、「週に2~3回」との答えが最も多くなっている。



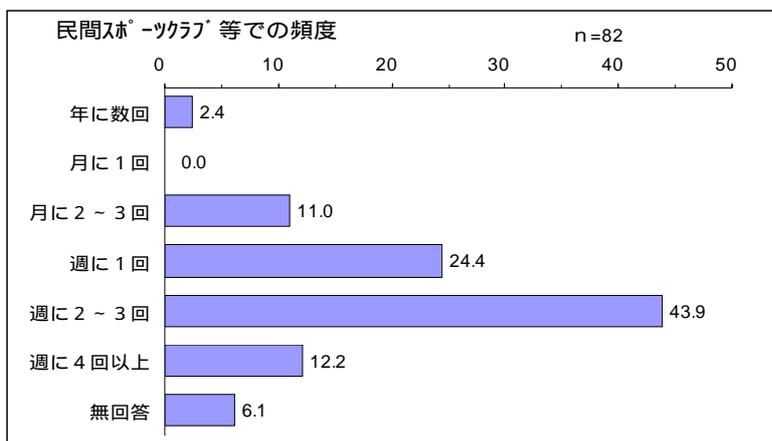
「年に数回」が過半数で、最も多くなっている。



「週に1回」がいちばん多く、次いで「月に2~3回」の順になっている。



「年に数回」が20.6%と最も多いが、「月に2~3回」(19.3%)、「週に2~3回」(19.1%)の答えも僅差で続いている。



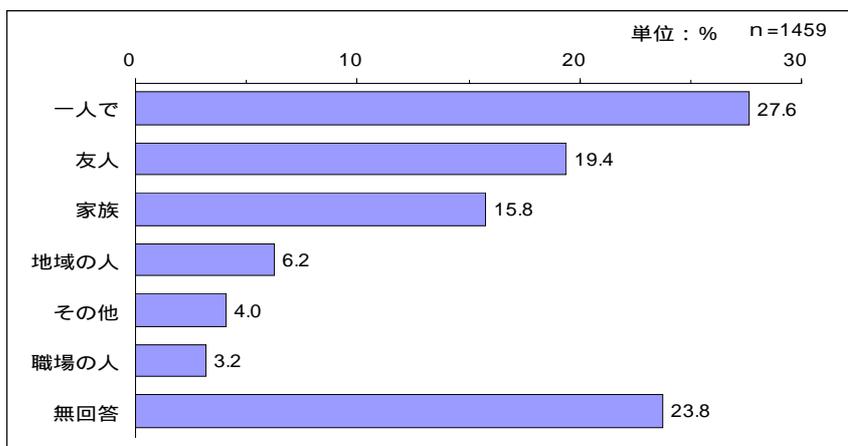
「週に2~3回」とする回答が最も多い。第2位は「週に1回」。

(2) 運動・スポーツを一緒にする人

運動・スポーツは「一人で」しているという人が多い

問 48 あなたは、運動・スポーツを主にどのような人と一緒にしていますか。

(は1つだけ)



「一人で」している、という回答が最も多い(30%弱)が、無回答を挟んで、「友人」と、という回答も20%弱に達している。

【性別/年齢別】

* 上段...人数(単位:人) 下段...構成比(単位:%)

		全体	家族	職場の人	友人	地域の人	一人で	その他	無回答
合計		1459	230	46	283	91	403	59	347
		100.0	15.8	3.2	19.4	6.2	27.6	4.0	23.8
性別	F1 男性	636	81	38	123	36	209	22	127
		100.0	12.7	6.0	19.3	5.7	32.9	3.5	20.0
	女性	790	144	8	156	53	185	36	208
		100.0	18.2	1.0	19.7	6.7	23.4	4.6	26.3
年齢	F2 20歳代	175	19	7	69	3	41	9	27
		100.0	10.9	4.0	39.4	1.7	23.4	5.1	15.4
	30歳代	269	71	17	47	9	71	16	38
		100.0	26.4	6.3	17.5	3.3	26.4	5.9	14.1
	40歳代	225	46	11	38	17	59	9	45
		100.0	20.4	4.9	16.9	7.6	26.2	4.0	20.0
	50歳代	291	41	7	52	15	78	11	87
	100.0	14.1	2.4	17.9	5.2	26.8	3.8	29.9	
	60~64歳	169	14	4	36	17	50	6	42
		100.0	8.3	2.4	21.3	10.1	29.6	3.6	24.9
	65歳以上	298	34	0	36	29	94	7	98
		100.0	11.4	0.0	12.1	9.7	31.5	2.3	32.9

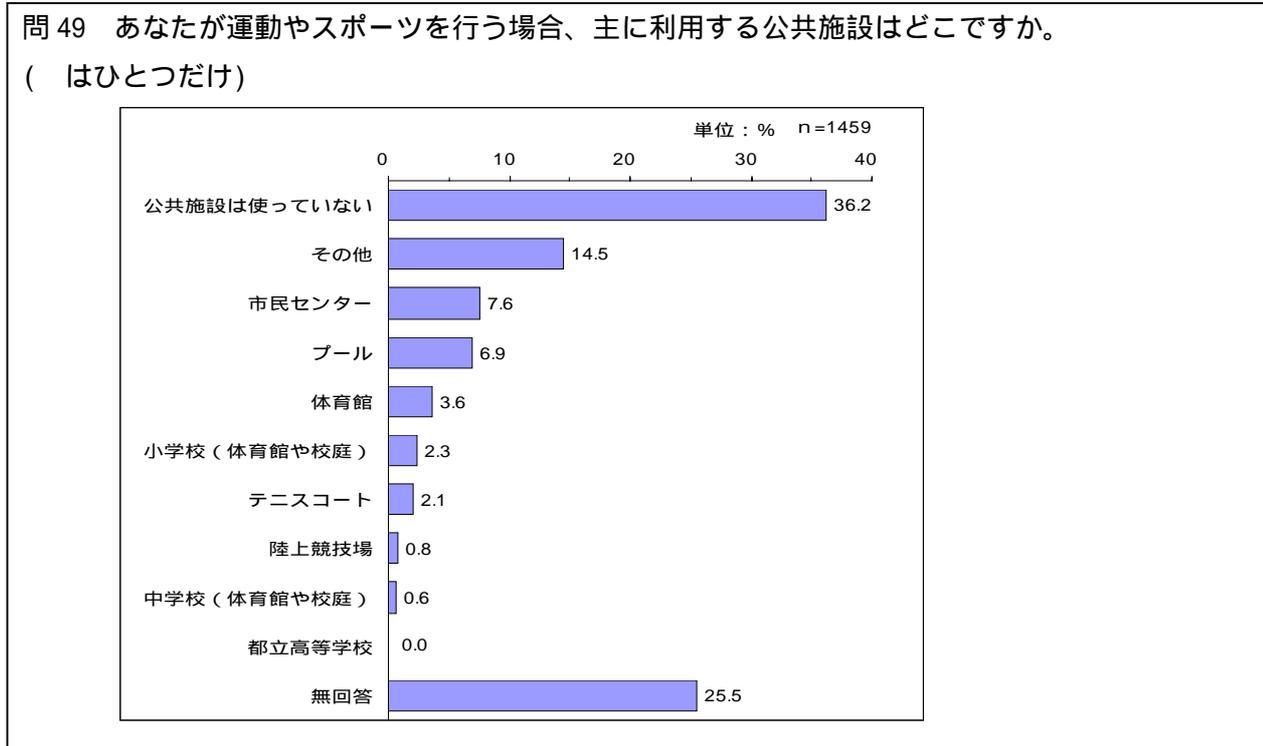
男性では全体や女性に比べ「一人で」のポイントが高く、女性とは10ポイント近い差がついている。また男性では「職場の人」のポイントも女性より5ポイントも高くなっている。

女性では逆に、全体や男性よりも「家族」のポイントが高くなっている(男性とは5.5ポイント差)。

年齢が高くなるほど「一人で」運動・スポーツをするという人のポイントが高くなる傾向が見てとれる。また、20歳代では「友人」のポイントが全体や他の年代と比べてきわめて高く、65歳以上では反対にかなり低めになっていることが分かる。

(3) 運動・スポーツを行う公共施設

利用されているものの中では「市民センター」、「プール」、「体育館」など



「公共施設は使っていない」という回答が最も多い(36.2%)が、利用されている公共施設の中では「市民センター」、「プール」、「体育館」などが多く使われていることが分かる。

【居住地域別】

* 上段...人数(単位:人) 下段...構成比(単位:%)

	全体	体育館	陸上競技場	テニスコート	小学校(体育館や校庭)	中学校(体育館や校庭)	都立高等学校	市民センター	プール	公共施設は使っていない	その他	無回答	
合計	1459	52	11	31	34	9	0	111	100	528	211	372	
	100.0	3.6	0.8	2.1	2.3	0.6	0.0	7.6	6.9	36.2	14.5	25.5	
居住地域	本庁管内(中央地域)	331	15	4	7	9	1	0	23	21	122	46	83
		100.0	4.5	1.2	2.1	2.7	0.3	0.0	6.9	6.3	36.9	13.9	25.1
	元八王子・恩方・川口(西部地域)	237	11	1	2	4	1	0	26	16	77	31	68
		100.0	4.6	0.4	0.8	1.7	0.4	0.0	11.0	6.8	32.5	13.1	28.7
	浅川・横山・館(西南部地域)	288	3	3	7	5	1	0	17	14	102	53	83
		100.0	1.0	1.0	2.4	1.7	0.3	0.0	5.9	4.9	35.4	18.4	28.8
	加住・石川(北部地域)	110	1	0	3	3	1	0	11	7	46	9	29
	100.0	0.9	0.0	2.7	2.7	0.9	0.0	10.0	6.4	41.8	8.2	26.4	
由井・北野(東南部地域)	216	9	1	6	3	2	0	20	22	84	33	36	
	100.0	4.2	0.5	2.8	1.4	0.9	0.0	9.3	10.2	38.9	15.3	16.7	
由木・由木東・南大沢(東部地域)	242	13	2	6	10	3	0	14	18	84	35	57	
	100.0	5.4	0.8	2.5	4.1	1.2	0.0	5.8	7.4	34.7	14.5	23.6	

元八王子・恩方・川口(西部地域)と加住・石川(北部地域)において、「市民センター」のポイントが高くなっている。また「プール」のポイントは由井・北野(東南部地域)で高い。

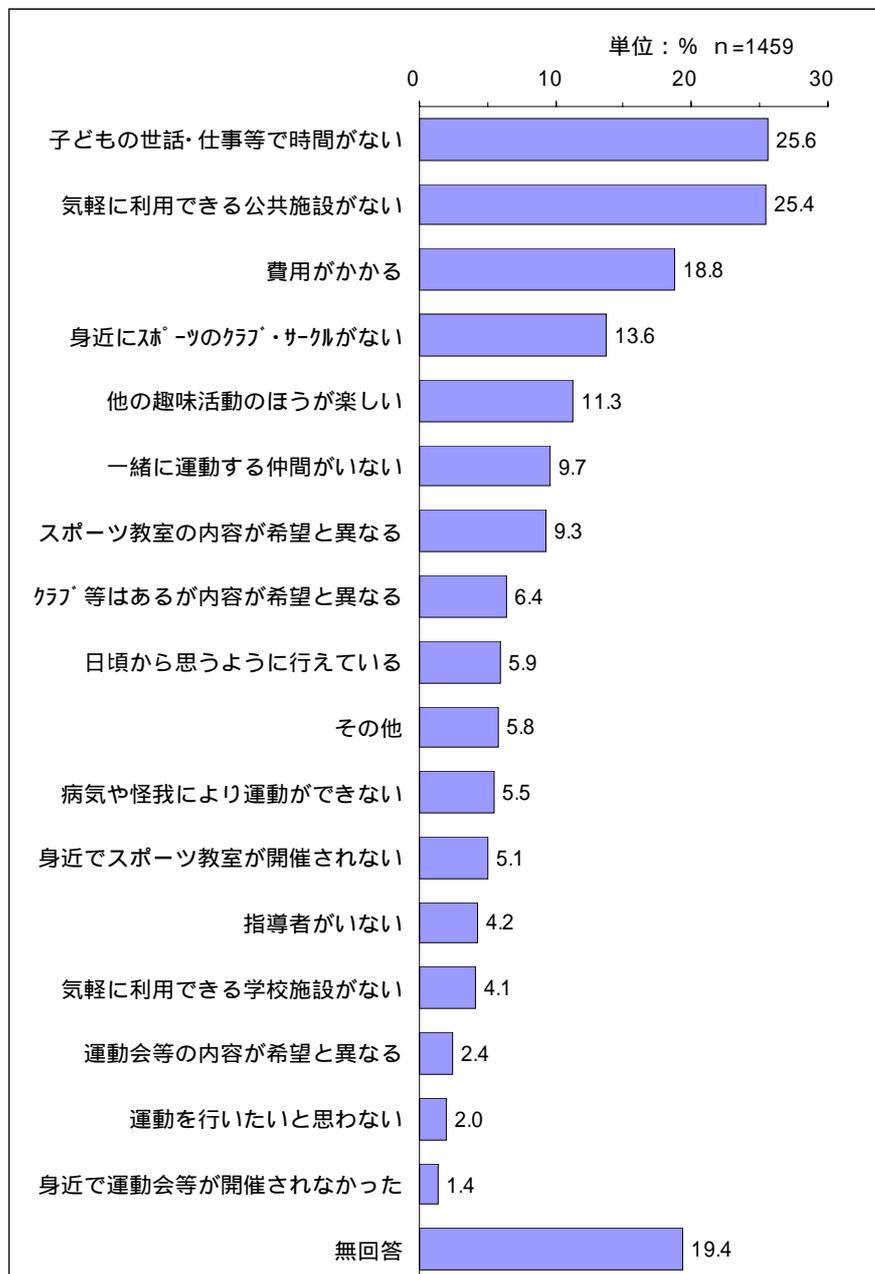
加住・石川と由井・北野では、「公共施設は使っていない」の割合が周辺より大きくなっている。

(4) 運動をしない・できない理由

「子どもの世話・仕事や通勤で時間がない」、「身近に気軽に利用できる公共施設がない」などが多い

問 50 日頃、運動を行わなかったり、運動をしたくても思うように行えない主な理由は何ですか。

(はいくつでも)



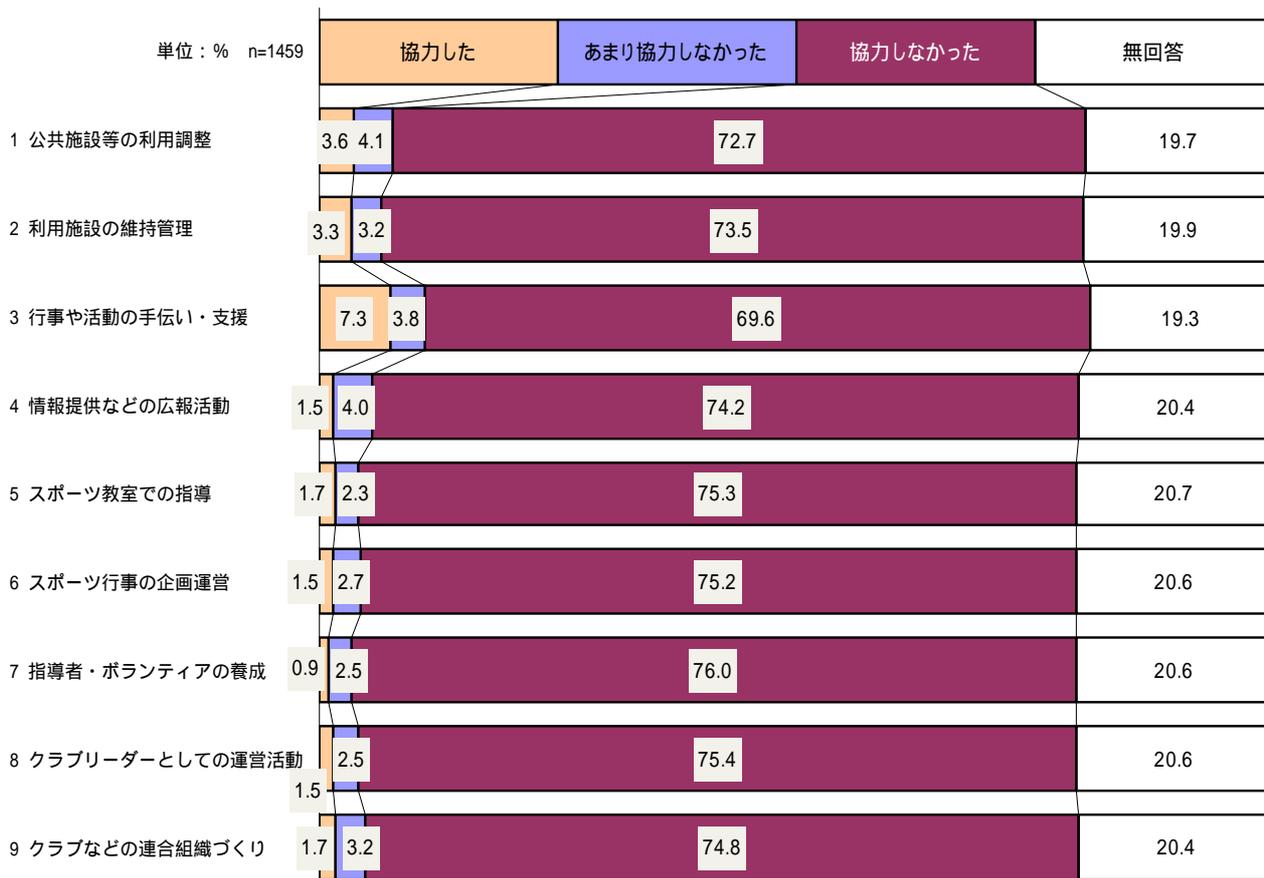
「子どもの世話・仕事や通勤で、運動する時間が作れない」(25.6%)、「身近なところに気軽に自由に利用できる公共施設がない」(25.4%)の選択肢が多く選ばれている。

第3位は「費用がかかる」(18.8%)

(5) 地域のスポーツ・レクリエーション活動への協力

「協力しなかった」との答えが多く、ほとんどの項目で7割を超える

問 51 あなたは、地域のスポーツ・レクリエーション活動について、過去1年間にどのくらい協力しましたか。1～9の各項目それぞれについてお答えください。(はそれぞれ1つずつ)



どの項目についても「協力しなかった」という回答が最も多くなっているが、比較的「協力した」が多くみられる項目としては「3 スポーツ行事や活動の手伝い・支援」(7.3%)、「1 公共スポーツ施設や学校開放施設の利用調整」(3.6%)、「2 利用施設の維持管理」(3.3%)などが挙げられる。

(6) 総合型地域スポーツクラブの認知度

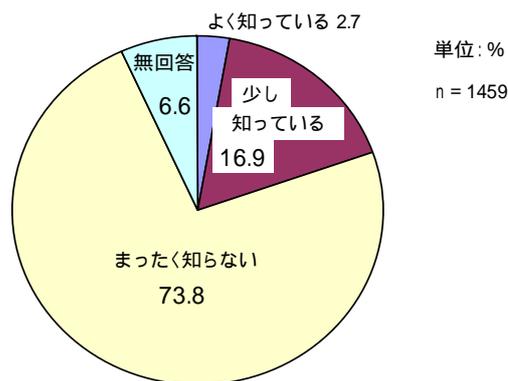
「まったく知らない」という回答が7割5分近い

問 52 あなたは、『総合型地域スポーツクラブ』という言葉を知っていましたか。

『総合型地域スポーツクラブ』

もともとヨーロッパを中心に発展したもので、地域住民が主体となり、運営するスポーツクラブの形態をいう。特徴としては、すべての世代が参加できる。多くの種目が用意され、様々なレベルの教室がある。質の高い指導者が配置されている。スポーツ活動を行う拠点となるスポーツ施設やクラブハウスがある。自主運営（会費制）がなされている。などが挙げられ、会員一人ひとりが『クラブ』の運営に関わりながら経営される組織をいいます。

(は1つだけ)



「まったく知らない」とした答えが圧倒的に多く、75%近くを占めている。

【性別 / 年齢別 / 居住地別】 * 上段...人数 (単位: 人) 下段...構成比 (単位: %)

		全体	よく知っ ている	少し知っ ている	まったく 知らない	無回答
合計		1459	39	246	1077	97
		100.0	2.7	16.9	73.8	6.6
性別	男性	636	21	117	459	39
		100.0	3.3	18.4	72.2	6.1
年齢	20歳代	175	4	20	145	6
		100.0	2.3	11.4	82.9	3.4
	30歳代	269	9	28	228	4
		100.0	3.3	10.4	84.8	1.5
	40歳代	225	7	37	176	5
		100.0	3.1	16.4	78.2	2.2
	50歳代	291	3	51	222	15
		100.0	1.0	17.5	76.3	5.2
	60～64歳	169	5	46	106	12
		100.0	3.0	27.2	62.7	7.1
	65歳以上	298	10	60	177	51
		100.0	3.4	20.1	59.4	17.1
居住地	本庁管内(中央地 域)	331	7	63	240	21
		100.0	2.1	19.0	72.5	6.3
	元八王子・恩方・ 川口(西部地域)	237	6	40	173	18
		100.0	2.5	16.9	73.0	7.6
	浅川・横山・館 (西南部地域)	288	8	44	211	25
		100.0	2.8	15.3	73.3	8.7
	加住・石川(北部 地域)	110	2	18	83	7
		100.0	1.8	16.4	75.5	6.4
	由井・北野(東南 部地域)	216	8	36	165	7
		100.0	3.7	16.7	76.4	3.2
	由木・由木東・南 大沢(東部地域)	242	7	39	184	12
		100.0	2.9	16.1	76.0	5.0

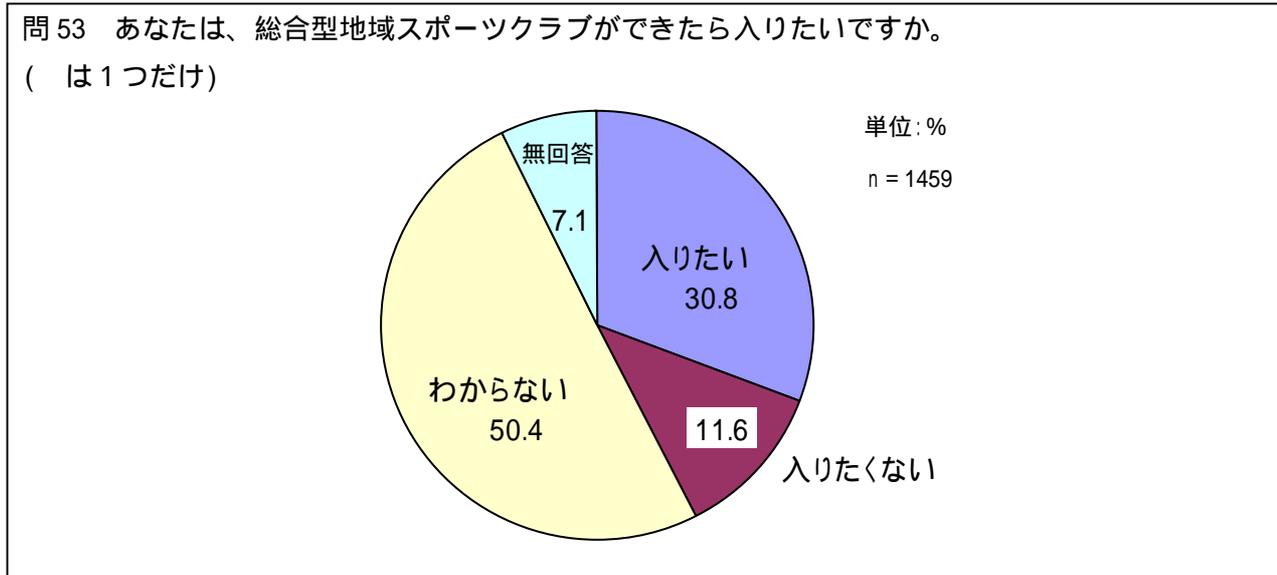
女性より男性でやや“知っている”割合が大きくなっている。

20歳代や30歳代では「まったく知らない」の割合が大きく80%を超えているが、年齢の上昇とともに「まったく知らない」の割合は減少する傾向がみられ、60～64歳では「少し知っている」が3割近くに達している。

本庁管内(中央地域)では、「少し知っている」の割合が周辺地域よりもやや大きくなっている。

(7) 総合型地域スポーツクラブ利用意向

約3割が「入りたい」と回答 若い人ほど関心を持っている



「わからない」とした人が最も多く過半数に達したが、「入りたい」と「入りたくない」では「入りたい」という人の方が多く、3倍近くのポイント差がついている。

【性別 / 年齢別】

* 上段...人数 (単位: 人) 下段...構成比 (単位: %)

		全体	入りたい	入りたくない	わからない	無回答
合計		1459	450	169	736	104
		100.0	30.8	11.6	50.4	7.1
性別	F1 男性	636	196	72	330	38
		100.0	30.8	11.3	51.9	6.0
性別	女性	790	249	94	386	61
		100.0	31.5	11.9	48.9	7.7
年齢	F2 20歳代	175	63	17	91	4
		100.0	36.0	9.7	52.0	2.3
	30歳代	269	96	25	146	2
		100.0	35.7	9.3	54.3	0.7
	40歳代	225	70	25	119	11
		100.0	31.1	11.1	52.9	4.9
	50歳代	291	85	39	153	14
	100.0	29.2	13.4	52.6	4.8	
年齢	60~64歳	169	51	19	85	14
		100.0	30.2	11.2	50.3	8.3
	65歳以上	298	79	42	122	55
	100.0	26.5	14.1	40.9	18.5	

性別による傾向の大きな違いはみられない。

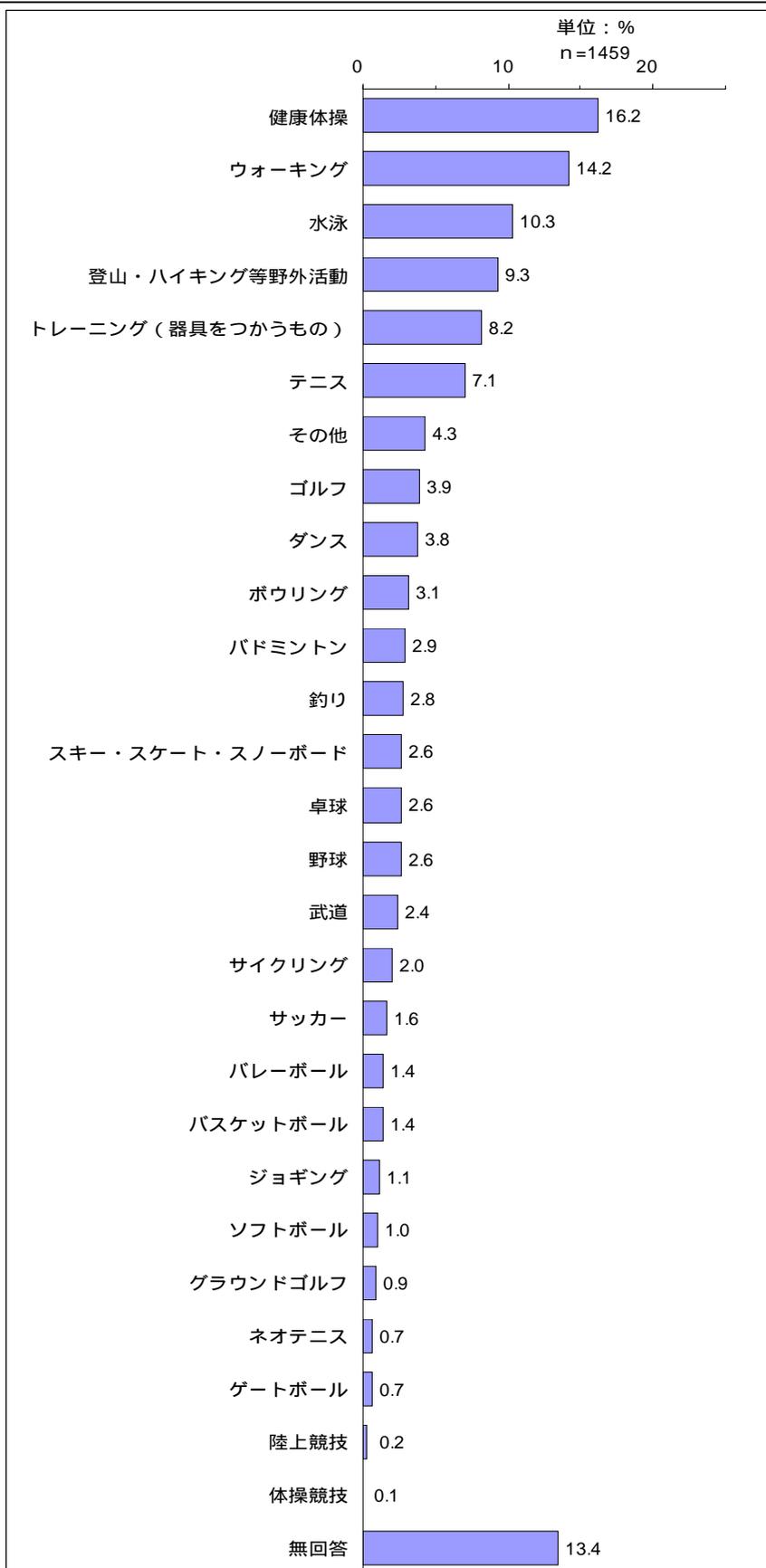
年齢別では、若年層ほど「入りたい」のポイントが高い傾向がみとめられ、逆に高年齢層ほど「入りたくない」のポイントが高くなる傾向がある。

(8) クラブで行いたいスポーツ

「健康体操」、「ウォーキング」、「水泳」などが人気

問 54 あなたは、総合型地域スポーツクラブに入るとしたら、どのようなスポーツを行いたいですか。

(は1つだけ)



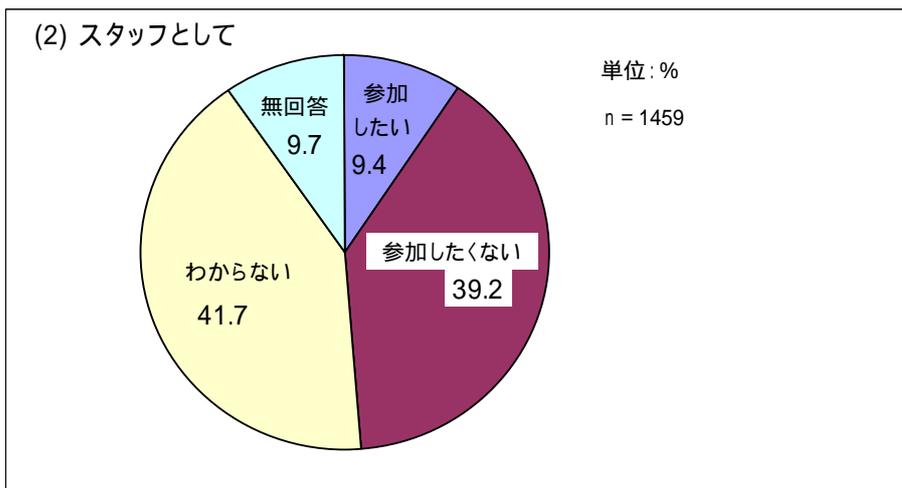
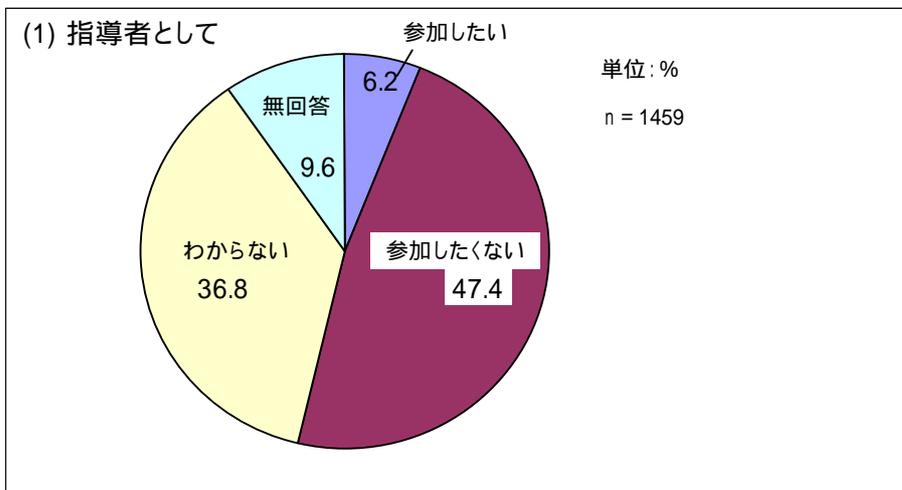
「健康体操」が最も多く選ばれている種目である(16.2%)。

それに「ウォーキング」(14.2%)、「水泳」(10.3%)などが続いている。

選択者ゼロの種目はなかった。

(9) クラブに指導者やスタッフとして参加したいか
いずれも「参加したくない」が「参加したい」の数倍 「参加したい」は1割未満

問 55 あなたは、総合型地域スポーツクラブができればスポーツの指導者や運営スタッフとして参加したいですか。(それぞれ は1つだけ)



スポーツ指導者としても運営スタッフとしても、「参加したい」に比べて「参加したくない」のポイントが数倍になっており、圧倒的に多くなっている。

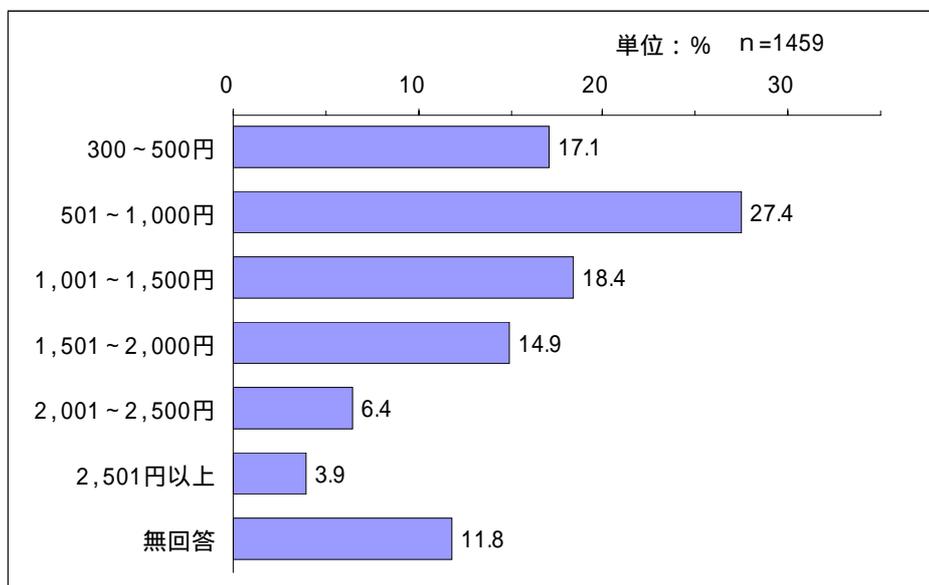
いずれにおいても「参加したくない」と「わからない」の合計は80%超となっている。

(10) 適当と考える会費

8割弱の人が月額“2,000円まで”が適当と考えている 最も多い
答えは「501～1,000円」

問 56 総合型地域スポーツクラブは会費制となりますが、あなたは月額会費はどのくらいが適当と
考えますか。

(は1つだけ)



最も多い回答は月額「501～1,000円」で、3割弱を占めている(27.4%)。

2番目に多い答えは「1,001～1,500円」(18.4%)、3番目は「300～500円」(17.1%)となっ
ている。

比較的低価格帯に回答が集中する傾向があり、「1,501～2,000円」も合わせて、“2,000円まで”
の選択肢を77.8%の人が選んでいる。